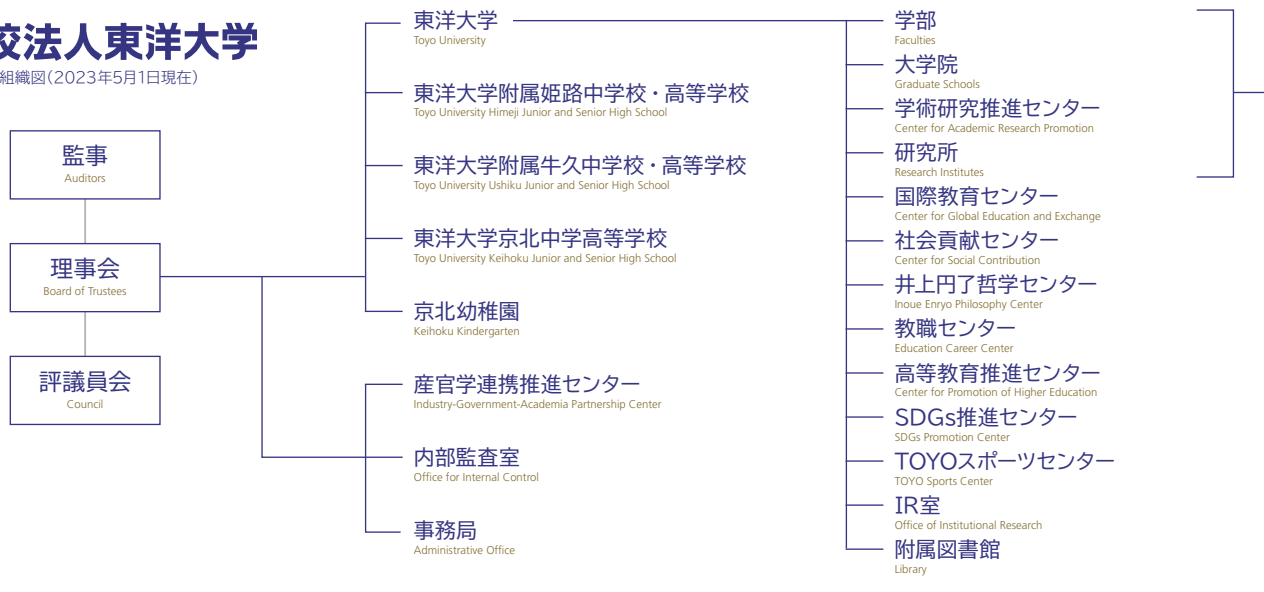


学校法人東洋大学

組織図(2023年5月1日現在)



学部

Faculties

文学部

Faculty of Letters

哲学科／東洋思想文化学科★／日本文学文化学科★／英文文学科／史学科／教育学科★／国際文化コミュニケーション学科

経済学部

Faculty of Economics

経済学科★／国際経済学科／総合政策学科

経営学部

Faculty of Business Administration

経営学科★／マーケティング学科／会計ファイナンス学科

法学部

Faculty of Law

法律学科★／企業法学科

社会学部

Faculty of Sociology

社会学科★／国際社会学科／メディアコミュニケーション学科／社会心理学

国際学部

Faculty of Global and Regional Studies

グローバル・イノベーション学科／国際地域学科★

国際観光学部

Faculty of International Tourism Management

国際観光学科

情報連携学部

Faculty of Information Networking for Innovation and Design

情報連携学科

福祉社会デザイン学部

Faculty of Design for Welfare Society

社会福祉学科／子ども支援学科／人間環境デザイン学科

健康スポーツ科学部

Faculty of Health and Sports Sciences

健康スポーツ科学科／栄養科学科

理工学部

Faculty of Science and Engineering

機械工学科／生体医工学科／電気電子情報工学科／応用化学科／都市環境デザイン学科／建築学科

総合情報学部

Faculty of Information Sciences and Arts

総合情報学科

生命科学部

Faculty of Life Sciences

生命科学科／応用生物科学科

食環境科学部

Faculty of Food and Nutritional Sciences

食環境科学科／健康栄養学科

大学院

Graduate Schools

文学研究科

Graduate School of Letters

哲学専攻／インド哲学仏教学専攻／日本文学文化専攻／中国哲学専攻／英文学専攻／史学専攻／教育学専攻／国際文化コミュニケーション専攻

社会学研究科

Graduate School of Sociology

社会学専攻／社会心理学専攻

法学研究科

Graduate School of Law

私法学専攻／公法学専攻

経営学研究科

Graduate School of Business Administration

経営学・マーケティング専攻／ビジネス・会計ファイナンス専攻★

理工学研究科

Graduate School of Science and Engineering

生体医工学専攻／応用化学専攻／機能システム専攻／電気電子情報専攻／都市環境デザイン専攻■／建築学専攻■／建築・都市デザイン専攻■

経済学研究科

Graduate School of Economics

経済学専攻／公民連携専攻★■

国際学研究科

Graduate School of Global and Regional Studies

グローバル・イノベーション学専攻■／国際地域学専攻

国際観光学研究科

Graduate School of International Tourism Management

国際観光学専攻

社会福祉学研究科

Graduate School of Social Welfare

社会福祉学専攻

生命科学研究科

Graduate School of Life Sciences

生命科学専攻

ライフデザイン学研究科

Graduate School of Human Life Design

生活支援学専攻■／ヒューマンライフ学専攻■／人間環境デザイン専攻

総合情報学研究科

Graduate School of Information Sciences and Arts

総合情報学専攻

食環境科学研究科

Graduate School of Food and Nutritional Sciences

食環境科学専攻

情報連携学研究科

Graduate School of Information Networking for Innovation and Design

情報連携学専攻

健康スポーツ科学研究科

Graduate School of Health and Sports Sciences

健康スポーツ科学専攻／栄養科学専攻

■…修士・博士前期課程のみ設置
■…修士後期課程のみ設置
印なし…博士前期・博士後期課程

研究所

Research Institutes

人間科学総合研究所／現代社会総合研究所／東洋学研究所／アジア文化研究所／地域活性化研究所／工業技術研究所／ライフイノベーション研究所／バイオ・ナノエレクトロニクス研究センター／アジアPPP研究所／グローバル・イノベーション学研究センター／情報連携学術実業連携機構

大学院・学部併設センター

Research Institutes and Centers affiliated with Graduate Schools and Faculties

生体医工学研究センター／PPP研究センター／国際共生社会研究センター／福祉社会開発研究センター／産学協同教育センター

★印は学部の場合は第2部・イブニングコースを設置していること、大学院の場合は主として夜間に授業を行う課程を示す



東洋大学

東洋大学はいま 2023

TOYO UNIVERSITY



Toyo University DIGEST



詳細はWebで
ご覧いただけます
You can also view this
data on our website.

建学の精神

The Founding Spirit of Toyo University

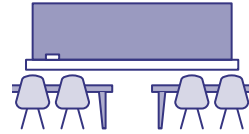
諸学の基礎は哲学にあり
The Basis of All Learning Lies in Philosophy

独立自活
Independence and Self-Initiative

知徳兼全
Integrating Knowledge and Virtue



学部学科数 (2023年度)
Number of Faculties and Departments



14 学部 48 学科専攻
14 Faculties and 48 Departments Courses

新制大学に移行した1949年の文学部設置以来、東洋大学は総合大学として14学部48学科専攻を擁するまでに発展し、全ての学部で4年間一貫の同キャンパス教育体制を実現。また、大学院は現在、15研究科36専攻から成り立っています。

海外との協定件数
(2023年3月31日現在)
Overseas Agreements



大学間 Inter-university Agreement
39 カ国・地域 251 協定
Countries Agreements

部局間等 Inter-departmental Agreement
33 カ国・地域 99 協定
Countries Agreements

東洋大学は、234大学・6コンソーシアム・7機関・3都市と大学レベルの協定を結んでいます。
※詳しい情報はP.27に掲載

就職率 (2023年3月卒業生)
Employment Rate



98.0 %

学内企業セミナー参加社数 (2022年度)
Number of Companies Participating in
On-Campus Company Information Sessions

708 社
Companies

2023年3月卒業生(学部第1部)の就職率は98.0%と高い水準を維持しています。

外部評価 External Evaluation

15年連続
15 Years in a Row
AA

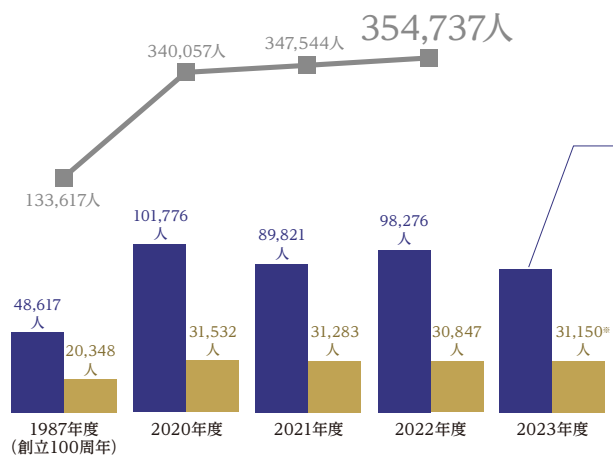
東洋大学は、2023年2月に株式会社日本格付研究所(JCR)より、15年連続で長期発行格付の「AA」(ダブルAフラット)、21段階の上から3番目の格付を取得。格付の見通しは「安定的」とされました。格付事由は、「強い学生獲得力を維持していること」「強固な財務基盤」などが挙げられています。

第2部・イブニングコース入学定員
(2023年度)
Evening Course (Night School) Admission Capacity

意欲ある学生が一人でも多く学べるように、学費を抑えた第2部・イブニングコースを6学部8学科に設置。夜間学部の定員数は日本の大学で最大規模であり、全私立大学夜間部学生の約28%が東洋大学に通っています。

710 人
Students

卒業生数・志願者数・学生数の推移
Number of Alumni, Applicants and Students



志願者数 (2023年度大学入学共通テスト利用入試・一般入試・多面的評価入試・実技入試/学部第1・2部合計)
Number of Applicants
87,094 人
Students

私立大学 全国8位
The 8th Largest Private University in Japan

■卒業・修了生数(累計)
■志願者数(大学入学共通テスト利用入試・一般入試・多面的評価入試・実技入試/学部第1・2部)
■学生数(学部第1・2部、大学院、通信教育課程)

2023年度大学入学共通テスト利用入試・一般入試・多面的評価入試・実技入試志願者数は87,094人で、これは国内615校の私立大学で8番目の規模です(2023年度入試の結果はP.24に掲載)。また、これまでの卒業・修了生は35万人を超え、それぞれ社会の第一線で活躍しています。
※2023年5月1日現在の暫定数であり、変更になる場合があります。

THE日本大学ランキング2023
Times Higher Education Japan University Rankings 2023

国際性 7 位
Environment Ranked 7th
教育充実度 12 位
Engagement Ranked 12th

「THE 日本大学ランキング 2023」において、私立の首都圏大規模大学における教育充実度で12位(全体45位)、国際性で7位(全体40位)、総合ランキングで14位(全体84位)となりました。
※私立大学、首都圏大規模大学[大学定員数 5,000人以上]

給付型
大学独自の奨学金支給総額 (2022年度)
Total Amount of Our Grant-type Scholarship Paid

9億2,510万8,000円
925,108,000 Yen

大学独自の学部生向け奨学金の給付総額。

海外留学・研修派遣者総数(7年間)
(2015年4月1日～2022年3月31日実績)
Total Number of Students Dispatched for Overseas Study and Training



11,026 人
Students

文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援事業」に採択。学生の海外経験を促す多彩なプログラムによりグローバルリーダーを育成しています。
※2020・2021年度はオンライン参加の人数も含む。

給付型
海外留学を支援する奨学金支給総額
(2015年度～2022年度)
Total Amount of Scholarship Paid for Study Abroad Support

9億8,896万4,412円
988,964,412 Yen

東洋大学海外留学促進奨学金としてのべ2,924人、東洋大学交換・認定・協定校語学留学奨学金としてのべ1,413人へ給付しました。

創立者 井上円了とは

Introducing Toyo University Founder.
Enryo Inoue

哲学教育を礎とし 世界に通用する人材を育てる

Nurturing World-class Talent Based on Philosophy Education

東洋大学は1887(明治20)年、哲学者・井上円了が創立した「私立哲学館」により、その歴史が始まりました。急速な近代化とともに日本の社会が大きく変わろうとしていたこの時代、円了は日本人が哲学を学び、「ものの見方、考え方」をしっかりと身に付ける必要があると考えました。このことから、哲学館では、いわゆる哲学者を養成するのではなく、哲学を通して知力を磨き、広く社会の中で活躍できる人材を育成することを教育目標としました。

Toyo University's history began in 1887, when philosopher Enryo Inoue founded a private school called the *Shiritsu Tetsugakukan*. Enryo Inoue believed that "for Japanese people living in the new era, philosophy will be the foundation of all thought." Rather than focusing on training professional philosophers, he emphasized the importance of "practice of philosophy," namely the value of ordinary people living upon their own thoughts and initiative through learning philosophy.



井上 円了(1858年～1919年)

1858(安政5)年、現在の新潟県長岡市の寺院、慈光寺の跡取りとして生まれる。10歳の頃から私塾で漢学の素養を磨いた後、16歳で長岡の洋学校(現新潟県立長岡高等学校)に入学し洋学を学んだ。20歳のとき、京都・東本願寺の国内留学生に選ばれ上京。東京大学予備門を経て、1881(明治14)年に東京大学文学部哲学科に入学し、哲学を修めた。卒業後は、新進気鋭の哲学者として、『哲学一タ話』、『仏教活論序論』などの著書を世に送り出し、高い評価を受けた。

1887(明治20)年、「諸学の基礎は哲学にあり」の理念の下、東洋大学の前身となる哲学館(後の哲学館大学)を創立すると、学校での教育とともに、全国巡回講演(巡講)や海外視察(世界旅行)を精力的に行うなど、独自の教育活動を展開した。学校経営から身を引いた後は、社会教育に傾注し、1919(大正8)年に生涯を閉じるまで、哲学堂(現中野区・哲学堂公園)の建設や講演、著述などの活動を通じて、教育による日本社会の発展と哲学の普及に力を尽くした。

東洋大学×漫画

創立者・井上円了を漫画化 チャレンジ精神に満ちたその生涯を全世代に

井上円了哲学センターは、2023年3月18日、東洋大学は創立者・井上円了の思想や生涯を作品化した漫画『円了』を公式Webサイトで公開。哲学者、生涯教育の先駆者、妖怪博士、仏教者、世界旅行者など様々な顔をもつ井上円了の姿を、附属高校を含めた自校教育の教材のみならず、子供から大人までに伝えることを目的として制作しました。漫画は、『B(バー)～ブラームス20歳の旅路』等を描いた留守keyの船渡正展氏(本学OB)、青山敬典氏が担当。「幕末から明治という激動の時代を生きた教育者円了を、ひとりの人間として描いてみたい」とコメントしています。

漫画『円了』は東洋大学公式Webサイトで閲覧できます

<https://www.toyo.ac.jp/about/founder/about/foundermanga/>



旅する哲学者

井上円了は、「活書活学」という言葉で、現実世界を活きたテキスト(活書)として、実体験から活きた学び(活学)をする大切さを説きました。そして、自らも「活書活学」を実践すべく、生涯3度にわたり世界一周の視察旅行を行いました。

旅を通して、円了は、世界各地に多様な自然と文化があることを知るとともに、欧米先進国の教育と宗教の実情について見聞を広めました。さらに、旅で得た知見を基に日本の現状をグローバルな視野から捉え直し、自らの教育事業の指針を定めています。

このような地球規模の「活書活学」によって、世界と日本がどこへ向かおうとするのかを探究し続けた創立者独自の哲学は、現代の東洋大学にも受け継がれています。「グローバル人材の育成」、「SDGs達成に寄与する研究の推進」など、東洋大学では今の時代・社会と向き合い、教育研究の推進と将来構想の策定に取り組むとともに、自己の哲学を磨き、物事の本質を見究められる人材の育成を行っています。

教育の門戸を広げる志

「余資なき者」(経済的余裕のない人)も、「優暇なき者」(時間的余裕のない人)も、哲学を中心とする諸学を短期間で修得できる。1887(明治20)年、井上円了は哲学館を創立するに当たり、このような趣旨を掲げました。そうしたところ、50名の入学定員に対して、希望者が殺到し、ついには200名ほど集まったところで入学謝絶となりました。

その翌年には、地方に住むなどの理由で通学できない人を対象に、『哲学館講義録』を頒布し、通信教育にも取りかかります。さらに、1890(明治23)年には、円了が自ら全国各地に出向いて講演を行う全国巡回講演も開始します。こうした取り組みは、広く民衆に教育機会を開放する試みとして、画期的なものでした。

現在、東洋大学では、教育の門戸を広げようとした創立者の志を受け継ぎ、6学部8学科に第2部・イブニングコースを設置するほか、社会貢献センターにおいて公開講座や講師派遣事業を行うなど、幅広い学びの場を提供しています。

哲学者にして妖怪博士

井上円了は、哲学者であると同時に妖怪研究の先駆者として知られています。円了が最初に妖怪研究に取りかかったのは、東京大学在学中のことで、いわゆる化け物だけでなく、俗信や精神現象、天変地異など、広く世の中で不思議とされている事象が研究の対象となっていました。こうしたものに対して、円了は科学的なアプローチでその解明に取り組みました。この極めてユニークな研究は、やがて妖怪学という独自の学問に体系化され、哲学館での講義や著書、講演などを通して、「妖怪博士」の異名とともに世間にも知られていきました。

妖怪学は、根拠のない思い込みや偏見に惑わされず、物事の本質を見極めることの大切さを説くものであり、日本を精神面から近代化しようとする試みでもありました。



東洋大学 主な沿革 History

- | | |
|-------|--|
| 1887年 | 井上円了が本郷区龍岡町の麟祥院内に私立哲学館(東洋大学の前身)を創立する |
| 1897年 | 小石川区原町に新校舎落成(現・白山キャンパス) |
| 1899年 | 私立京北尋常中学校*を開設
※現・東洋大学京北中学高等学校 |
| 1905年 | 京北幼稚園を開設 |
| 1906年 | 私立東洋大学と改称 |
| 1916年 | 日本の私立大学で初めて女子の入学を許可 |
| 1920年 | 「私立」の冠称が廃止され、東洋大学へ改称 |
| 1949年 | 新制大学に移行、文学部を設置 |
| 1952年 | 大学院を設置 |
| 1961年 | 川越キャンパス(埼玉県)を開設 |
| 1963年 | 東洋大学附属姫路高等学校(兵庫県)を開設 |
| 1964年 | 東洋大学附属牛久高等学校(茨城県)を開設 |
| 1977年 | 朝霞キャンパス(埼玉県)を開設 |
| 1997年 | 板倉キャンパス(群馬県)を開設 |
| 2005年 | 朝霞キャンパス(文・経済・経営・法・社会学部)の1・2年次を白山キャンパスに統合し、4年間一貫教育開始 |
| 2006年 | 大手町サテライト(東京都)を開設
白山第2キャンパス(東京都)を開設 |
| 2011年 | 総合スポーツセンター(東京都)完成
学校法人京北学園と法人合併し、京北中学校・高等学校、京北学園白山高等学校、京北幼稚園を併設校とする |
| 2012年 | 創立125周年を迎える
125周年記念館(8号館)にて記念式典を挙行 |
| 2014年 | 東洋大学附属姫路中学校(兵庫県)を開設
文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援事業(タイプB)」採択 |
| 2015年 | 京北中学校・高等学校が東洋大学京北中学高等学校に校名変更し、東京都文京区白山に移転
東洋大学附属牛久中学校(茨城県)を開設 |
| 2017年 | 赤羽台キャンパス(東京都)を開設 |
| 2021年 | 赤羽台キャンパスに「WELLB HUB-2」が完成
ライフデザイン学部・ライフデザイン学研究科が赤羽台キャンパスに移転 |
| 2023年 | 赤羽台キャンパスに新校舎「HELSP0 HUB-3」が完成
赤羽台キャンパスに福祉社会デザイン学部と健康スポーツ科学部を開設 |

理事長・学長あいさつ

Message from
Chairman & President



理事長・学長の
特別対談がWebで
ご覧いただけます
You can also view this
data on our website.

新型コロナウイルス感染症は2023年5月から季節性インフルエンザと同じ5類感染症に移行し、世界的流行は峠を越えたように見えますが、世界的な物価高騰は深刻です。その影響は先進国にとどまらず、エネルギー危機や食糧危機といった形で途上国の経済を圧迫し始めました。

そのような中であって、明るい兆しとなりうるのが技術革新です。特にデジタル技術の発展はめざましく、1800年代の産業革命に匹敵するレベルの転換点になりうると思っています。急速な変革の時代であると思いますが、私はドイツの哲学者ヘーゲルの言葉でもある「変化しなければ進歩はない」という心を大切にしています。

東洋大学は昨年創立135周年を迎えて、赤羽台キャンパスと朝霞キャンパスの再編や全学レベルでのDX推進など、これまで以上に大きく変化しています。急速な変革の時代にあっても、その変化を受け入れることができているのは、創立者井上円了が説いた「諸学の基礎は哲学にあり」という建学の精神が根付いているからだと思うのです。

そのような伝統を引き継いでいながら、大学としてSDG s (持続可能な開発目標) や地球温暖化といった地球規模の課題に挑んでいく必要があるでしょう。

今年の日本全国の大学進学者数は63万人で、その方々の多くが生まれた2004年の出生数は111万人でしたが、2022年の出生数は80万人を下回っています。そのような厳しい状況を踏まえて、この先を考えながら150周年とその先のグランドデザインを描いていきたいと思っています。

In Japan, the legal status of COVID-19 was downgraded to the same category as seasonal flu in May 2023, and the world in general seems to have got through the worst of the pandemic. However, severe price increases have begun to afflict the world globally, causing energy and food crises mainly in developing countries while affecting the developed-world economy.

Despite this challenging situation, we can find a silver lining in technology innovation. Particularly, the recent advancement of digital technology is significant, and I view that it will bring about a historic turning point comparable to that resulting from the industrial revolution in the 1800s. We are in a period of rapid change, and for this very reason, I note the importance of the idea of “no change, no progress,” which underlies Hegelian philosophy.

Last year, Toyo University marked the 135th anniversary of its founding. We are implementing major transformation programs—larger than ever before, including reorganization of the Akabanedai and Asaka Campuses as well as university-wide DX strategies. Our university has grown over these many years in response to the changes of the times, including periods of rapid transformation. I believe that this is largely owing to the founding spirit of Enryo Inoue, the founder of Toyo University, which is described as “the basis of all learning lies in philosophy,” being firmly established throughout the university.

Going forward, while maintaining that tradition, we will need to take on new challenges as a university to address global issues, such as the Sustainable Development Goals (SDGs) and climate change.

The total number of new enrollments in universities across Japan registered this year was 630,000, a large percentage of which is composed of those born in 2004, when the total registered number of births was 1.11 million. The number has declined to less than 0.8 million in 2022. Recognizing this severe situation, we will draw a grand design of the University toward its 150th anniversary and beyond.



学校法人東洋大学 理事長

安齋 隆

Takashi Anzai

Chairman,
Toyo University Incorporated Educational Institution

1941年生まれ。東北大学法学部卒業。日本銀行、(株)日本長期信用銀行(現・(株)新生銀行)頭取、(株)アイワイバンク銀行(現・(株)セブン銀行)社長などを経て、2009年12月学校法人東洋大学理事に就任し、2018年12月から現職。

東洋大学 学長

矢口 悦子

Etsuko Yaguchi

President, Toyo University

1956年生まれ。お茶の水女子大学大学院人間文化研究科(博士課程)単位取得満期退学。博士(人文科学)。専門分野は社会教育学・生涯学習論。複数大学の非常勤講師および他大学教授を経て、2003年4月から東洋大学文学部教授。文学部長などを歴任し、2020年4月から現職。

東洋大学は、今まさに大きな変革のさなかにあります。学校法人東洋大学中期計画「TOYO GRAND DESIGN 2020-2024」の下で進めてきた、大規模な学部・学科再編とキャンパス移転が進み、2023年4月には赤羽台キャンパスに新校舎が完成し、新たに2つの学部が誕生しました。2024年4月には朝霞キャンパスも新しく生まれ変わります。

このようなハード面での改革の内側で、新型コロナウイルス感染症への対応を契機としてDXが急激に進みました。「東洋大学公式アプリ」の導入、教室の設備変更、さらに授業運営全般の変革など、今やデジタル対応を抜きにしては大学の運営や教育を考えられない状況になっています。

現在は、2024年度からの10年間を対象として、教務部門の中長期計画を策定しているところです。中長期計画の策定にあたっては、「未来を哲学する、東洋大学」というスローガンを掲げました。

「東洋大学の哲学とは、物事の本質に迫って深く探求し、考察を重ねることであり、諸学の基礎である。この基礎の上に、地球社会のあらゆる課題に取り組む科学として学問研究が成り立つ。科学する力を身につけ、実践することで、東洋大学は、未来づくりに貢献する。」「東洋大学の特徴は、多様性を有していることにある。多様性は困難な状況や課題を克服するための必要条件となる。違いを超えて連携し、協働し、改革を続けることで、伝統を未来に繋ぐことができる。」と考えております。様々な社会状況が突きつける課題を乗り越えるとともに、創立150周年を見据えた東洋大学の未来を創るため哲学し、ダイバーシティによる連携と協働で改革を進めてまいりたいと思います。

本学には「東洋大学の心」である「他者のために自己を磨く」「活動の中で奮闘する」という文化が根付いており、どの学生にも困っている人を助けたい、誰かの幸福のために力になりたいという気持ちがあります。それがより良い社会を築くための学びや活動の原動力になり、素晴らしい結果を生んでいるのです。

東洋大学では、そのような学生たちの主体性をこれまで以上に大切に、教職員たちも哲学を持ってともに悩み、考え、一緒に歩んでいきたいと考えています。

Toyo University is currently undergoing a major transformation. Under the TOYO GRAND DESIGN 2020-2024, the medium-term plan formulated by Toyo University Incorporated Educational Institution, large-scale plans were carried out to reorganize faculties and departments and relocate campuses. As a result, a new school building was completed on the Akabanedai Campus and two new faculties were launched in April 2023. Also, on the Asaka Campus, renovation work scheduled to be completed in April 2024 is underway.

While carrying out these building refurbishment plans, we rapidly accelerated the implementation of DX strategies in response to the spread of COVID-19. Digital technologies have been introduced to build the University's essential management and education systems on digital platforms, specifically to launch the Toyo University Official App, modify classroom facilities and teaching/learning settings in general appropriately, and conduct other necessary measures.

At present, we are formulating the medium- to long-term plan for the education and students affairs departments for the period of ten years from AY2024. In association with the plan in preparation, we have established the slogan stating “Toyo University, Building a future based on philosophy.”

My view on the uniqueness of Toyo University is as follows: The basic thinking of Toyo University is that the basis of all learning lies in philosophy, which engages in deep exploration and continuous discussions for understanding the true nature of things. Academic research should constitute scientific activities based on this thinking and aimed to solve all kinds of issues faced by global society. Toyo University commits to developing and exercising its scientific capabilities, and contributing to creating a better future. Diversity is a unique strength of Toyo University. A diversity of people will play an essential role in overcoming challenges and hardships of all kinds. Also, people with different backgrounds can generate dynamism by getting together, and promote cooperation and collaboration for ongoing reform processes and pass down the tradition to the future. We will strive to overcome various challenges related to social situations, develop a philosophy for the future of Toyo University, looking forward to the 150th anniversary of its founding, and press ahead with diversity-driven reforms while promoting cooperation and collaboration.

Our University has established a culture that encourages an attitude of “improving oneself for the benefit of others” and “striving in action,” phrases representing the “Heart of Toyo University,” and thanks to this culture, our students are willing to help people in need and act for the well-being of others. Such attitude of students constitutes a driving force toward learning and other activities to create a better society, which produces notable results.

At Toyo University, focusing more on helping our students exercise their initiative, faculty and staff members will work together sharing the appropriate philosophy, and thinking and acting to address issues.

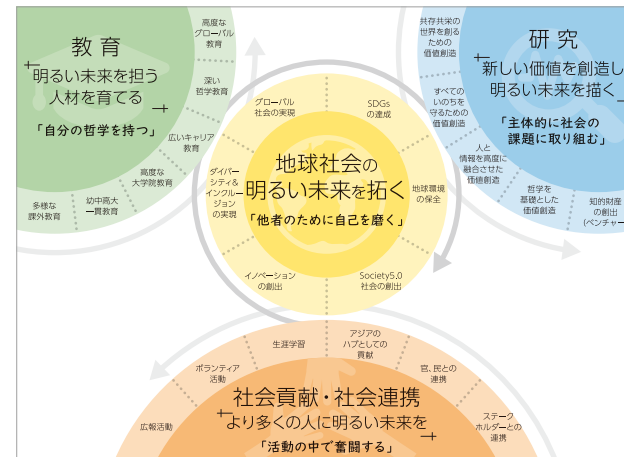
中期計画に基づき キャンパス整備、学部・学科再編



学校法人東洋大学は、2020年度から2024年度までの5年間の活動指針となる中期計画「TOYO GRAND DESIGN 2020-2024」を策定。この中期計画に基づくキャンパスの整備や学部・学科の再編を行います。

中期計画「TOYO GRAND DESIGN 2020-2024」

本学の理念の一つ“他者のために自己を磨く”に基づき策定した「TOYO GRAND DESIGN 2020-2024」では、「地球社会の明るい未来を拓く」をキーコンセプトに「研究」「教育」「社会貢献・社会連携」と、それらを実現するための「新規事業」「ガバナンス・マネジメント」の5つの領域で今後の目標を定めました。各領域の目的として、研究は「新しい価値を創造し明るい未来を描く」、教育は「明るい未来を担う人材を育てる」、社会貢献・社会連携は「より多くの人に明るい未来を」と設定。それぞれが円了的理念である“主体的に社会の課題に取り組む”“自分の哲学を持つ”“本質に迫って深く考える”を踏まえたものです。これらを実現する「新規事業」「ガバナンス・マネジメント」によって、明るい未来の実現に貢献していくことを目指します。

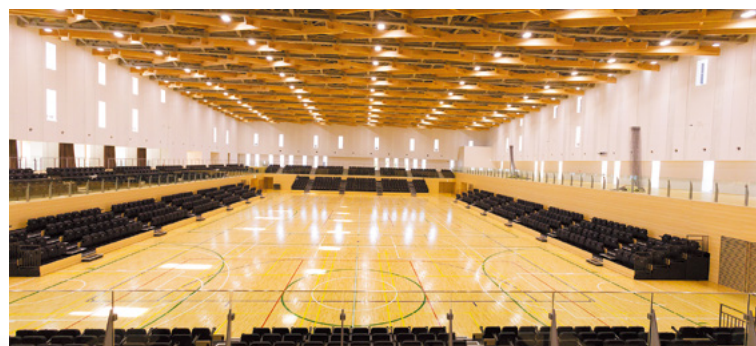


赤羽台キャンパス新校舎HELSP0 HUB-3が2023年1月に完成 4月に2つの新学部が始動

赤羽台キャンパスでは2023年4月から、「福祉社会デザイン学部（社会福祉学科、子ども支援学科、人間環境デザイン学科）」と「健康スポーツ科学部（健康スポーツ科学科、栄養科学科）」が始動。その2学部5学科を含めた広がる学びの幅を支える新拠点HELSP0 HUB-3が、2023年1月に完成しました。INIAD HUB-1（2017年完成）、WELLB HUB-2（2021年完成）に続き、隈研吾建築都市設計事務所が設計を担当しており、キャンパス全体に統一感を演出します。HELSP0という名称は、健康スポーツ科学部＝Faculty of Health and Sports Sciencesが由来となっており、健康・スポーツ科学分野でのアジアにおける教育・研究の拠点を目指すという意味が込められています。HELSP0の誕生をきっかけとして、赤羽台キャンパスは、既設の情報連携学部を含む「情報」「福祉」「子ども支援」「デザイン」「健康スポーツ科学」「栄養科学」の学術拠点として、社会課題の解決に向けてより一層努めていきます。



HELSP0 HUB-3



アリーナ(アリーナ・食堂棟3-4階)



ボルダリングウォール

板倉キャンパス等から朝霞キャンパス(埼玉県朝霞市)への学部移転・改組、朝霞キャンパスの整備

2024年4月に生命科学部・食環境科学部・生命科学研究所・食環境科学研究所が、板倉キャンパス(群馬県板倉町)から朝霞キャンパス(埼玉県朝霞市)に移転します。同時に、理工学部生体医工学科・理工学研究科 生体医工学専攻が、川越キャンパス(埼玉県川越市)から朝霞キャンパスに移転します。

また、移転に合わせ、朝霞キャンパスに新たな校舎を建設します。これからの生活様式をふまえた教育研究に関する施設設備を充実させ、生命(いのち)と食に関する総合的な教育研究拠点を形成します。



©株式会社石本建築事務所
2024年竣工予定の朝霞キャンパス鳥瞰パース

生命科学部の移転・改組



「いのち」のあり方を思索する哲学と倫理を基盤に、俯瞰的な視野を養い、生命科学の各領域についての深い専門知識を獲得。「いのち」と健康の分野に関する学内連携が可能な、朝霞キャンパスを拠点に学びを深めます。医療や食糧、環境問題といった社会・地球規模の課題の解決、そして持続可能性の実現に貢献する人材を育成します。

食環境科学部の移転・改組



新しい朝霞キャンパスを拠点とし、食に関わるあらゆる分野を網羅的にカバーする「食環境科学」について、総合的な学びと研究を展開します。食品の安全と安心、食や栄養に関する情報や行政のしくみ、機能と栄養の関わりを学んで、実社会で役立つ実践力を獲得。専門知識をもって食や栄養についての多様な問題の解決に取り組み、持続可能な社会の実現に貢献する人材を目指します。

2023年(板倉・川越)

板倉	生命科学部	生命科学科	→
		応用生物科学科	
川越	理工学部	生体医工学科	→
板倉	食環境科学部	食環境科学科 フードサイエンス専攻 ^{※1}	
		健康栄養学科	→

2024年(朝霞)

生命科学部	生命科学科	入学定員 113名
	生体医工学科〈開設〉 ^{※2}	入学定員(予定) 113名
	生物資源学科〈開設〉 ^{※2}	入学定員(予定) 113名
食環境科学部	食環境科学科(定員増)	入学定員(予定) 126名
	フードデータサイエンス学科〈開設〉	入学定員(予定) 113名
	健康栄養学科	入学定員 100名

※1 食環境科学部 食環境科学科 フードサイエンス専攻は2024年度にフードサイエンス専攻としての募集を停止します(食環境科学科は、朝霞キャンパス移転後も引き続き募集します)。

※2 開設にともない理工学部 生体医工学科(川越キャンパス)と生命科学部 応用生物科学科(板倉キャンパス)は2024年度に募集を停止します。移転対象の学部学科(募集停止する学科を含む)の在学生の修学キャンパスは、2024年度から朝霞キャンパスとなります。

〈開設〉：2024年4月開設に向けて設置届出済、収容定員に係る学則変更の認可申請中。計画内容は変更になる可能性があります。

〈定員増〉：2024年4月の定員増加に向けて収容定員に係る学則変更の認可申請中。計画内容は変更になる可能性があります。

大学DXへの挑戦



詳細はWebで
ご覧いただけます
You can also view this
data on our website.

TOPIC1 :「学校法人東洋大学総合DX推進事業」の取り組み

本学では、2022年6月に「学校法人東洋大学総合DX推進事業」を策定しました。既存の制度や業務を、デジタルを前提にあり方から考え直し、局所最適化した従前のやり方を改革して全体最適化することを基本的な方針として、これからの大学運営のあり方を根本的に考え直すことに挑戦しています。主な事業の柱として、「DX研修による人材育成（IT研修含む）」「手続きの電子化・ペーパーレス化」「学内コミュニケーションの円滑化」「ネットワークの強化」「施設設備管理のDX・省エネルギー化」「情報セキュリティ・BCP対策」「ITコスト管理の高度化」を掲げ、2022年度より推進しています。この事業により、教育研究に直接かわらない手間やコストを効率化し、無駄な残業や移動などをなくして働き方改革を進めるだけでなく、その分の時間や労力を、教育の本質的な部分、教育上丁寧に対応すべき案件や教育研究の充実に活かすことができるよう、取り組んでまいります。

－2022年度取り組んだ主な事例－

職員対象
DXマインド
養成研修の実施

DX人材育成
コース
(アジャイル開発・
プログラミング)
の開講

Google
Workspace
研修の実施

職員による
業務手続き等の
アプリ開発

TOPIC2 : 教育DXによる教育改革・キャンパスライフの質向上を目指す

本学では、東洋大学教育DX推進基本計画に基づき、時代の変化に対応する教育モデルを確立してまいります。また、昨今の生成系AIのめざましい技術進化のなかで、哲学を礎とし、物事の本質に迫る学びを重んじる本学としての、新しい教育モデルの確立を目指しています。

2022年4月に「東洋大学公式アプリ」の運用を開始。学生の学び、キャンパスライフの充実につながる情報の提供に留まらず、学生自身による学習計画の立案や学びによる成長、さらにはキャリア形成につながるための羅針盤としての機能を備えています。



総合大学の強みを活かした公開講座などリカレント教育の推進が具体化しつつあります。人生100年時代の生涯学習、大学院準備教育・資格取得講座、講師派遣生涯学習など6つのアクションプランによるリカレント教育の世界展開を計画しています。

TOPIC3 : 東洋大学における生成系AIの学習への利用

本学では、生成系AIについて、「利用のしかた次第では学修上の有用性も認められており、参考・引用文献に類したものとして利用することまで否定できるものではない」と捉えています。

学生には、レポート等は自ら調べ「考えて」執筆することが基本で、生成系AIの出力に安易に頼った学習にならないように周知しています。

PICK UP 情報連携学部 (INIAD) における活用例

2023年4月、全学生向けにChatGPT (GPT4) を活用させる教育システムを開発・導入しました

導入の目的

- 生成系AIを利用した自学自習を可能にして教育効果を高める
- 生成系AIのAPIをプログラミングで利用できるようにしシステム開発のスキルを学習させる

INIADの生成系AIに対するスタンス

- 生成系AIを活用することを制限せず、むしろ推奨
- 生成系AIと対話を繰り返すことで学生が自分の考えを深めることができる
- 学生が「楽ができる」ようにするのではなく、ChatGPTを使うことによる「結果の質」をより厳しく評価する

SDGs達成への貢献



詳細はWebで
ご覧いただけます
You can also view this
data on our website.

SDGsの理念に賛同し、地球社会の明るい未来づくりに貢献するために、「学校法人東洋大学SDGs行動憲章」を制定。「教育」「研究」「社会・国際貢献」「環境貢献」「ダイバーシティ&インクルージョン」の5領域において行動目標を定め、SDGs達成に向け活動しています。



東洋大学SDGs推進センターを設立。記念シンポジウムをToyo SDGs Weeksに開催

SDGs推進体制を強化するため、2022年10月1日に「東洋大学SDGs推進センター」を設立しました。それを記念し、2022年10月22日に「SDGs×カーボンニュートラルーいま、わたしにできること。ー」と題したシンポジウムを開催しました。シンポジウムでは、高山直樹教授（東洋大学社会貢献センター長）による、SDGs認知度調査の結果報告をはじめ、国際学部国際地域学科、東洋大学SDGsアンバサダー、東洋大学附属姫路高等学校地域活性部による取り組みが紹介されました。基調講演では、「ライフサイクル思考で実現するカーボンニュートラル社会」と題して、平尾雅彦氏（東京大学先端科学技術研究センターライフサイクル工学分野教授）による講演も行われました。

このシンポジウム開催を含め、10月10日から11月6日までの期間を「TOYO SDGs Weeks」と題し、学内のSDGsムーブメントのさらなる醸成のため、SDGsに関連した35の各種プログラムを開催し、延べ4,110名が参加しました。シンポジウムを含めたいくつかの企画は一般公開を行い、学内だけでなく、広く社会に向けて持続可能な社会の実現に資する情報発信に努めました。



SDGs認知度調査結果報告を行う東洋大学社会貢献センター長の高山直樹教授



「高校生による自然活用型社会を目指した活動」を紹介する東洋大学附属姫路高等学校地域活性部

SDGsアンバサダー学生による活動が活発化。2023年4月には「SDGs留学生アンバサダー」が入学

SDGs活動の一層の活性化、充実および発展を図るために、学生個人または学生団体に対して「東洋大学SDGsアンバサダー」の称号を付与する制度を2021年度にスタート。2年目となる2022年度は新たに59名の学生が希望し、前年度から継続した19名と合せて、合計78名の学生を認定しました。SDGsアンバサダーの学生は、制度の目的や自身が担う役割、活動に必要な基礎知識や学内外の活動事例を学ぶスタートアップセミナーを経て、学内の関係委員会で推薦・承認され、学長から称号を付与されます。アンバサダー学生はそれ

ぞれの関心に応じた企画を立案し、学園祭や「Toyo SDGs Weeks」などで活動しました。また、SDGsの達成に向けて様々な形でグローバル社会に貢献する意欲と実行力を持ち、SDGsに関連した活動や学内外におけるグローバル化に繋がる活動に取り組む外国人留学生を「SDGs留学生アンバサダー」に認定し、納付金や住居等を支援する制度もスタート。2023年4月に第1期生となる3名が入学しました。



2022年度は、「子ども支援」「ジェンダー」「環境問題」「フードロス」「被災地支援、防災」「SDGsワークショップ」「SDGsカフェ」「学生出張チーム」という8つのテーマで、学生たちが自ら考えたSDGs活動を実施しました。



詳細はWebで
ご覧いただけます
You can also view this
data on our website.

国際化の推進

東洋大学のウクライナ支援活動のあゆみ

東洋大学では、ロシアのウクライナ侵攻が勃発した2022年2月以降、早期よりウクライナの3大学と学術交流協定を締結するとともに、継続的な大学生・研究員等の受け入れや講演会の

開催を行うなど、様々な支援活動に取り組んでおり、今後も継続していきます。

東洋大学の主な支援活動

2022年4月12日

ウクライナのタラス・シェフチェンコ・キーウ国立大学、ボリス・グリーンチェンコ記念キーウ市立大学、国立航空大学と包括的学術交流協定ならびに学生交換協定を締結。教育活動のほか、渡日や日本での生活など、総合的な支援を目的としています。



2022年4月12日

セルギー・コルスンスキー駐日ウクライナ特命全権大使による特別講演会「ウクライナ コサックの民の歴史と文化」を開催。写真をふんだんに盛り込みながらウクライナの歴史・文化等について日本との共通点を含めて紹介されました。



2022年5月9日

ウクライナからの受け入れ学生12名のうち先に来日が実現した3名が本学に登校し、法人・教学役職者、関係者と懇談会を開催。学生からは、「この機会を最大限に生かして勉学に励んでいきたい」と意気込みが語られました。



2022年5月19日～

東洋大学社会貢献センター主催で特別講演「ウクライナの人々や子どもたちは今」を全3回開催。

2022年7月4日



ウオロディミル・ゼレンスキーウクライナ大統領によるオンライン特別講演会を開催。ゼレンスキー大統領の希望により、在ウクライナ日本国大使館を通じて本学での開催を提案いただきました。講演では戦争と平和についてお話しされ、「ウクライナは平和のために戦っている。みなさん、平和を守ってください」と訴えかけました。講演会を聴講した本学の学生から「ウクライナと日本の発展を進めるにはどのような貢献が考えられるか」などの質問が投げかけられ、ゼレンスキー大統領から丁寧な回答をいただきました。

2022年11月11日

社会学部メディアコミュニケーション学科で、シンポジウム「ウクライナ戦争を考える」を開催。

2023年1月30日

ウクライナ国立航空大学の学長が来訪し、学生交換協定を更新しました。3月末にタラス・シェフチェンコ・キーウ国立大学およびボリス・グリーンチェンコ記念キーウ市立大学とも学生交換協定を更新。



2023年2月21日

本学での留学期間を終えて、ウクライナへ帰国する受け入れ学生8名のFarewell ceremonyを開催しました。

今回の軍事侵攻によりウクライナ国内での学習機会が奪われていく中で、本学では「学生たちに学びの場を提供することで支援したい」という考えに至りました。ウクライナより受け入れた学生の皆さんは、本学の日本人学生や他国の留学生との授業・寮生活を通じて、学びや課題での体験を共有することができたと思います。一方、日本人学生たちは、ウクライナの歴史や文化、社会情勢を深く学び、また日本について見直すことができたと思います。ここで培われた友情や交流の経験は、学生たちにとって未来の平和づくりへの基礎になると信じています。

東洋大学学長 矢口悦子

「スーパーグローバル大学創成支援事業」SGUのこれから

東洋大学は2014年に採択された「スーパーグローバル大学創成支援事業」（SGU）に対応して、不断なく国際化を推進しています。2024年度以降は各部局が独自に国際化の目標（異

文化理解教育、外国語教育、外国語による授業、海外研修等）を策定し、中長期計画に落とし込み、2025カリキュラムに反映させていきます。

2024年度以降の国際化について

多文化共生グローバル人材の育成

異文化理解能力を高めるために、異文化コンピテンシー（文化の違いを深層まで理解し、感情的にならず、適正な行動を起こす能力）を身につけた学生の育成を国際教育センターの目標として推進します。学生の異文化コンピテンシー獲得のために基盤教育科目「異文化理解概論」「留学のすすめ」を継続して開講し、人材育成を推進します。

留学や海外研修等へのサポート

本学学生の海外留学等への派遣および外国人留学生の受入については従来通り推進する計画です。オンラインを活用した「国際学生ミーティング」、「模擬国連」や「ECZ (English Community Zone)」等のイベントの実施を通して、留学生（正規生・交換留学生）と日本人学生との交流機会を増やすとともに、各部局の教育においても、同様に交流機会を設定できるように協働します。

TGLプログラムの新たな展開

本学の学生が国際社会において活躍するための基礎力を育成するTGLプログラムについては、学生の自主的な学びのガイドとして役立ててもらいます。モチベーションを維持するために、英語以外の外国語基準の採用、海外渡航を必須としないこと、オンラインプログラムとの併用等の制度設計を再構築します。TGL (Toyo Global Leader) キャンプや国際共修等の実施を通して、SDGsをはじめとした国際的な課題の解決に貢献する学生、多文化共生グローバル人材の育成に取り組みます。

異文化コミュニケーションの手段としての語学力強化

国際的な課題解決の舞台は、世界中の多様な言語により成り立っています。それに対応するためにも、先ず、各部局の特性や学生の志向に配慮しつつ、全学年に英語教育を実施できる体制を構築します。また、英語以外の語学能力の向上のための教育にも注力し、世界中の人々との協働に必要なコミュニケーションツールとしての語学力強化を図ります。

学生へのサポート

留学生（正規生）の受け入れにおいては日本語教育を強化することが肝要です。正課授業では、「9段階のレベル別日本語教育」を体系立てて開講しています。また、課外においても、正課授業と連動させて様々な日本語能力を向上させる「日本語STEP UP 講座」、上級者向けの「ビジネス日本語ポイント講座」等を開設しています。今後も留学生の日本語教育をさらに充実させるとともに、留学生の日本における就職活動を全学を挙げて支援していきます。

SGU事業の「必須評価項目」指標

SGU事業に対する国の財政支援は2023年度に終了しますが、2028年度までの5年間は文部科学省が求める「必須評価項目」指標の公表が義務づけられています。これら指標の統計については、ホームページ上での公開を続けていきます。

SGUを踏まえた今後の東洋大学の国際化

本学が進めてきた国際化にとって、「スーパーグローバル大学創成支援事業（SGU）」の取り組みは、その流れの通過点。今後もその経験と成果を生かして、創立以来不断なく進めてきた本学の国際化を推進します。

全学の国際化

- 異文化理解力の育成
- 全学的見地からの教育の国際化
- 全学的見地からの研究の国際化
- 大学の国際的ブランド力

部局(学部・学科・研究科・専攻・事務部)の国際化

これまでの国際的な教育・研究・交流の経験と蓄積に基づく個性を発揮した独自の国際化の目標を策定し、これを推進。

- 異文化理解力の育成
- 全学的見地からの教育の国際化
- 大学の国際的ブランド力
- 全学的見地からの研究の国際化

国際教育センターが実施する事業等を通して
各部局の国際化を「伴走者」として支える

全学的な見地からの国際教育センター／国際部の役割

- 各部局の国際化の目標の策定にあたっての情報提供・情報交換等の協力
- 各部局の国際化の推進にあたり、外国語教育、日本語教育、海外研修、日本人学生と留学生との交流その他についての協力
- 多文化共生グローバル人材の育成
- 異文化コミュニケーションの手段としての語学力強化
- 留学や海外研修等へのサポート
- 留学生への日本語教育の推進
- TGLプログラムの新たな展開

※2028年度までSGU事業の「必須評価項目」指標を公開

教育

Education



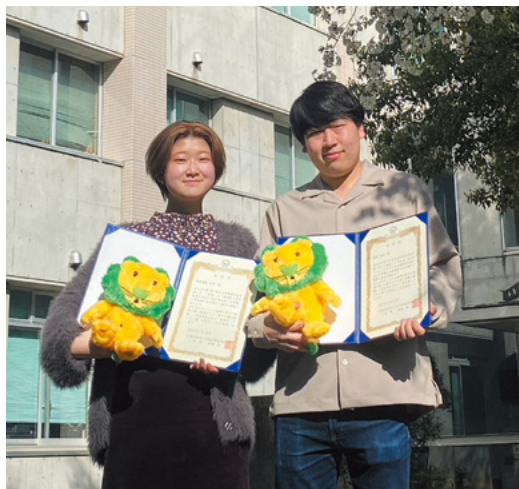
詳細はWebでご覧いただけます
For further details, please visit our website.

自己の哲学を磨き、 物事の本質を理解する人材の育成

グローバル化の進展によって多様な価値観が混在し、急速に変化していく現代社会。時代や環境の変化に流されることなく物事の本質を捉え、未来を切り拓く力を持った人材を育成します。

Developing Human Resources Who Can Cultivate Their Own Philosophy and Understand the Essence of Things

Progress in globalization has diversified our contemporary society in terms of values, and put it in rapid flux. Toyo University will foster human resources who have the ability to grasp the essence of things and open up a brighter future, rather than those who are passively affected by social trends and situational changes.



学生・教員が各所で多彩な活躍 学外から高い評価を獲得

東洋大学は、様々な教育・研究活動の取り組みを続けており、学生・教員の活躍が学外から高い評価を受けています。理工学部恵美須屋彩瑛さん、萩原大祐さん（いずれも理工学部応用化学科／井坂研究室）は、日本水環境学会の『年会学生ポスター発表賞（ライオン賞）優秀賞』を受賞。また、情報連携学部長の坂村健教授は、コンシューマーエレクトロニクス分野での貢献が評価され、世界的な賞であるIEEE井深大コンシューマー・テクノロジー賞を受賞しました。

Achievements of Students and Faculty Members in Various Areas Highly Evaluated by External Organizations

Toyo University is continuously engaged in a wide range of educational and research activities, and its students and faculty members are highly evaluated by external organizations for their achievements. Sae Ebisuya and Daisuke Hagiwara (both at Department of Applied Chemistry, Faculty of Science and Engineering; under Prof. Kazuichi Isaka) won a prize of excellence in the Best Student Poster Presentation Award (Lion Award) hosted by the Japan Society on Water Environment. Prof. Ken Sakamura, Dean of the Faculty of Information Networking for Innovation and Design received the world-renowned IEEE Masaru Ibuka Consumer Technology Award in acknowledgement of his contribution to the consumer electronics sector.

総合スコア

49.7

教育リソース

22.0-

教育充実度

74.1

教育成果

32.9

国際性

72.6

THE 日本大学ランキング2023で教育充実度や国際性が高評価

東洋大学は「THE 日本大学ランキング2023」で私立の首都圏大規模大学*において14位（全体84位）に選出されました。このランキングは、「教育リソース」「教育充実度」「教育成果」「国際性」の4分野16項目を指標として作成されます。東洋大学は、「教育充実度」の分野で12位*（全体45位）、「国際性」で7位*（全体40位）と特に高く評価されました。

*私立大学、首都圏大規模大学[大学定員数5,000人以上]

High Scores for Engagement and Environment in THE Japan University Rankings 2023

In the THE Japan University Rankings 2023, Toyo University ranked 14th (84th overall) among large-scale private universities in the Tokyo metropolitan area.* These rankings are formulated to evaluate the educational performance of universities, setting 16 indicators in four areas: Resources, Engagement, Outcomes, and Environment. Toyo University received a high evaluation, ranking 12th* (45th overall) in Engagement and 7th* (40th overall) in Environment.

*Large-scale universities in the Tokyo metropolitan area (Universities with a capacity of 5,000 or more students)



大学で学んだ「知」を実践へ 産学協同プロジェクトを実施

東洋大学は、大学で学んだ「知」を実践するため、産学協同のプロジェクトを実施しています。ライフデザイン学部人間環境デザイン学科3年の有志20名が参加した伊勢丹新宿店とのプロジェクトでは、ショーウィンドウディスプレイを企画・制作し、2022年12月26日から2023年1月17日まで展示されました。また、経営学部の蜂巢ゼミでは栃木県庁農政部等と連携して栃木県の女性農業家が生産した食材を使用した「ロコモコ」を考案し学食で販売しました。

Promoting Industry-University Collaboration Projects for Practical Application of Knowledge Acquired at the University

Toyo University promotes industry-university collaboration projects to create an opportunity to apply knowledge learned at the university to practical settings. One of such projects was organized jointly with Isetan Shinjuku Store. It was carried out by 20 voluntary participants from among third-year students in the Department of Human Environment Design, Faculty of Human Life Design, who created and implemented a store window display plans. Their work was on display from December 26, 2022 to January 17, 2023. In another such project, a team under the seminar hosted by Associate Prof. Akira Hachisu partnered with the Tochigi Prefectural Government's Agricultural Policy Department to develop loco moco recipes that use the produce of local female farmers and offered the related dishes at the university cafeteria.

Q 現在、不安を感じていることを教えてください。

■ 仲の良い友人を作れるか

2021年 33.0% -14.2% 2022年 18.8%

■ 授業についていけるか

2021年 29.5% -5.0% 2022年 24.5%

■ 教員とコミュニケーションができるか

2021年 18.1% -2.9% 2022年 15.2%

● アンケート結果の詳細は、下記にて公開しています。
<https://www.toyo.ac.jp/about/ir/survey/results/>



学生アンケートによる実態把握で教育改善を推進 2022年度はコロナ禍の不安が和らぐ結果に

東洋大学では毎年、「新入生」「在学生」「卒業時」の3つのアンケートを実施することで学生の実態を把握し、その結果を教育環境の改善に役立てています。2022年11月に実施した在学生アンケートの「現在、不安を感じていること」を選択する設問では、「仲の良い友人を作れるか」など対人関係への不安が大幅に減少。対面での学びや学生生活の再開により、学生たちが活動の場を取り戻している様子が推し量られます。今後も学生が充実したキャンパスライフを送れるよう実態把握と改善に取り組んでいきます。

Improving Educational Environment Based on Student Surveys Concerns Related to COVID-19 Reduced in AY2022

Every year, Toyo University conducts three student surveys, targeting "new students," "current students," and "just graduated students," respectively, with the aim of understanding the situation related to students to improve the educational environment. The surveys conducted in November 2022 showed a positive change from the past in the responses to closed-ended questions about current concerns, indicating a significant decline in the percentage of respondents reporting feeling anxiety over interpersonal relationships, such as friendship formation. This can be attributed to the recent change in the environment, allowing students to come back to the campus and engage in face-to-face learning and other activities. Going forward, we will continue with efforts to understand and improve the situation related to students, looking to enhance their campus life.

文部科学省「大学の世界展開力強化事業」に 東洋大学のグローバル人材育成プログラムが採択

東洋大学は国際化を推進しグローバル人材育成と国際教育交流に注力しています。その取り組みの成果として、文部科学省「令和4年度 大学の世界展開力強化事業－インド太平洋地域等との大学間交流形成支援－」に本学の「ビジネス日本語教育を通じた高度日本語人材と多文化共生グローバル人材の育成プログラム」が採択されました。

Toyo University's Program has been selected for the Inter-University Exchange Project funded by the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT)

Toyo University actively promotes internationalization initiatives focusing on global mindset development and international education and exchange. Among these initiatives, the program to develop the Japanese language abilities and multicultural communication skills of international professionals through intensive business Japanese language study has been selected by the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT) for its FY2022 Inter-University Exchange Project: Creation of Inter-University Exchanges in the Indo-Pacific Region.



DX人材の育成を目指した新たな学習サービスや キャリア支援プログラムを多数実施

東洋大学では、Society5.0時代のDX人材を育成するため、様々な学習サービスやキャリア支援プログラムを実施しています。ITエンジニア向けの国内最大転職・就職・学習プラットフォーム「paiza（パイザ）」を運営するpaiza株式会社と提携し、全学部生を対象にプログラミング学習ができる支援サービスを導入。また、全学部の1年生を対象としたDXやビジネススキルを学ぶオンライン講座を実施するなど、社会で活躍する人材を輩出するべく支援の拡充に取り組んでいます。

Providing a Variety of New Skills Learning Services and Career Development Support Programs in Response to DX

Toyo University provides a variety of skills learning services and career development support programs with the aim of developing competencies suitable for achieving the DX-driven Society 5.0 vision. We have adopted the services of Paiza, Inc., which operates "paiza," Japan's largest job search and skills learning platform for IT engineers, to provide programming learning programs for all undergraduate students. We are also enhancing functions to support skills learning for future competent professionals, particularly by offering business and DX-related skills learning courses online for all first-year students.

研究

Research



詳細はWebでご覧いただけます
For further details, please visit our website.

文理にわたる多様な研究を推進し、 様々な社会の課題解決に寄与

「学術・研究」機能を継続的に発展させ、各分野の基礎研究から、産官学連携による応用研究まで幅広く推進。有用な研究成果を社会へ還元していきます。

Promoting Diverse Research Endeavors in the Humanities and Sciences to Contribute to Solutions for Various Social Issues

Toyo University continuously enhances its academic research functions, and promotes research endeavors widely ranging from basic research in each field to applied research through collaboration between industry, government and academia. The University is ready to impart useful research achievements to society.

社会連携

Social Cooperation



詳細はWebでご覧いただけます
For further details, please visit our website.

教育・研究機関として社会と連携し、開かれた大学へ

創立者の精神を継承した「社会に開かれた大学」として、教育・研究の知、学生の力、高度な施設などを活用し、「社会貢献」と「地域連携」を推進しています。

Collaborating with Stakeholders as an Educational and Research Institution to Become a University Open to Society

As a “university open to society” that cherishes the spirit of its founder, Toyo University promotes social contribution and collaboration with local communities, taking advantage of its strengths, including increased knowledge through educational and research activities, the power of its students, and its state-of-the-art facilities.



卒業生との産学連携プロジェクトから 新しいコンセプトの日本酒を製品化

東洋大学は、様々な研究成果を実社会で生かすために、産官学連携を積極的に推進しています。工業技術研究所では、「東洋大学工業技術研究所産学連携プロジェクト」として理工学部生命工学研究室（峯岸宏明准教授）と本学卒業生が専務を務める有限会社佐藤酒造店（埼玉県）が連携し、2023年2月に川越キャンパスに自生するホトケノザの花酵母を使用した日本酒「越生梅林エスティ」を製品化しました。

Producing New Concept Sake from Industry-Academia Partnership Project with an alumnus

Toyo University actively promotes industry-government-academia partnership formation in various fields, seeking to create opportunities to apply its research achievements to real-life settings in society. The most recent efforts are represented by the Industry-Academia Partnership Project, which Toyo University Research Institute of Industrial Technology conducts. It has succeeded to form a partnership between the Bioengineering Laboratory (Assoc. Prof. Hiroaki Minegishi) in the Faculty of Science and Engineering and Sato Shuzo, a sake brewer who is a Toyo University graduate serving as senior managing director, in order to develop and commercialize a sake product that uses yeast isolated from the flower of Lamium amplexicaule, which is a native plant on the Kawagoe Campus. The product was placed on the market under the name of Ogosebairin STY in February 2023.



地域で活躍する人材育成を目指し 地域の課題解決に向けた取り組みを支援

東洋大学では社会貢献活動への支援の一環として、東洋大学社会貢献センターが主体となって、本学教員と学生が共同して進める地域活性化活動に対し、必要経費の補助を行っています。2022年度の地域活性化支援事業では、「香川県さぬき市の姉妹都市交流再生プロジェクト」や「高津川流域におけるフードデザート調査」、GISによるフードツーリズム空間のマイニングと提言」など、北海道から沖縄県と全国にまたがる10件を支援しました。今後も、住民とともに地域の課題解決や地域おこし活動を実施することで、学生の地域への理解を促し、地域で活躍する人材の育成を目指します。

Nurturing Human Resources to Play an Active Role in Regions Supporting Efforts for Solving Local Issues

As an initiative to support social contribution activities, Toyo University runs a subsidy program for regional revitalization activities conducted jointly by faculty members and students, which is under the administration of the Toyo University Center for Social Contribution. In AY2022, the subsidy program selected a total of ten projects, conducting a wide variety of activities spanning the entire country from Hokkaido to Okinawa, such as for: revitalizing sister city exchanges Sanuki City, Kagawa Prefecture; survey on food deserts in the Takatsu river basin; and GIS-enabled spatial data mining for food tourism and related suggestions. Through efforts for solving issues and regional revitalization activities together with local residents, we aim to promote our students' understanding of the respective regions and develop human resources who will play an active role there.



多階層の研究によるアスリートサポートから高齢者ヘルスサポート技術への展開(研究代表者:理工学部生体医工学科 加藤和則教授)



バイオメテックス活用による高機能かつ持続可能なものづくり(研究代表者:理工学部生体医工学科 合田達郎教授)

2022年度重点研究推進プログラムの成果報告会を実施 7つのプロジェクトが先端的な研究を推進

東洋大学は、超スマート社会の到来に向けて、本学独自の独創的かつ先端的な研究を支援することを目的に「東洋大学重点研究推進プログラム」を創設しています。2022年度現在、7つのプロジェクトが助成対象となり研究を推進しています。2023年2月に2022年度の重点研究推進プログラム研究成果報告会を開催。各プロジェクトから2022年度に開発した技術や成立した特許権の他、プロジェクトで得られた知見を社会に還元する取り組みなど多彩な活動の報告がなされました。今後も東洋大学の文理融合による英知を結集し、地球社会の明るい未来に貢献することを目指していきます。

Holding AY2022 Focal Research Promotion Program Debriefing Session for Seven Cutting-Edge Research Projects

Toyo University Top Priority Research Program was established in order to support its unique and cutting-edge research projects, with an eye towards a Super Smart Society to be realized in the future. As of AY2022, seven subsidized projects are underway. The AY2022 Top Priority Research Program Debriefing Session took place in February 2023. In the session, each project team presented a report of various activities and results of AY2022, such as new techniques established or for which a patent right was granted during the academic year as well as programs run to give back to society. Going forward, we will effectively utilize the extensive knowledge built up by Toyo University in a diverse range of fields in the humanities and sciences, with the aim of contributing to creating a brighter future for the global society.



市町村や団体と協定を結び 地域社会の発展に貢献

東洋大学は、地域がより活性化できる仕組みづくりをサポートするための社会貢献・連携活動を推進しています。2022年10月12日には、横浜市と公民連携に関する共同研究や人材育成を通じて、公民連携分野の発展と地域活性化を促進することを目的とした連携協定を締結しました。また、埼玉県川島町や奈良県広陵町、群馬県高山村とも協定を締結し、地域との連携を通じて、自治体などが抱える課題の解決とともに考え、対策を実践していきます。

Forming Partnerships with Municipalities and Regional Organizations to Contribute to the Development of Local Communities

Toyo University promotes social contribution and cooperation activities to support local communities in creating systems to implement revitalization plans. One recent example is related to the cooperation agreement signed with the City of Yokohama on October 12, 2022, which is for implementing joint research and educational programs with the objective of developing public-private cooperation activities and facilitating regional revitalization. We have also concluded cooperation agreements with Kawajima Town in Saitama Prefecture, Koryo Town in Nara Prefecture, and Takayama Village in Gunma Prefecture. Based on the agreements concluded, we are working together with each of the municipalities to create and carry out plans to solve local issues.

スポーツ

Sports



詳細はWebでご覧いただけます
For further details, please visit our website.

スポーツを「哲学」し、人と社会と世界を結ぶ人材を育成

東洋大学は、スポーツを通じた社会貢献を目指し、「哲学」をふまえたスポーツの取り組みを推進しています。「TOYO SPORTS VISION」を掲げて、人と社会と世界を結ぶ人材の育成を多面的に展開していきます。

Developing a philosophy of sports and promoting education aiming to connect people and society around the world

Toyo University aims to contribute to society through sports, and promotes various sports-related activities based on our philosophy. We are developing multifaceted education activities in order to build talent for connecting people and society around the world, according to the TOYO SPORTS VISION.

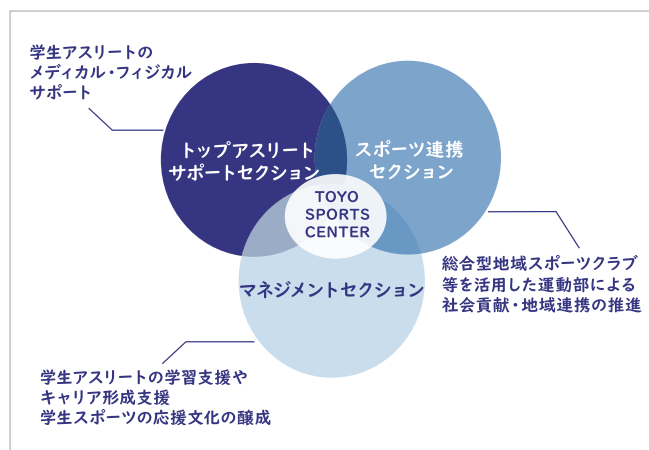
スポーツを通じた人材育成に取り組む「TOYO SPORTS CENTER」を4月に開設

本学は、2016年より掲げている「TOYO SPORTS VISION」に基づき、2023年4月に「TOYO SPORTS CENTER」(TSC)を開設しました。TSCは、「トップアスリートサポートセクション」「スポーツ連携セクション」「マネジメントセクション」の3つのセクションで構成されます。トップアスリートサポートセクションでは、学生アスリートのメディカル・フィジカルサポートを展開します。スポーツ連携セクションでは、総合型地域スポーツクラブの展開

を目標として社会貢献・地域連携の活動を行います。マネジメントセクションでは、学生アスリートに対し学修の支援やデュアルキャリア形成支援等を行います。この3つのセクションを相互に連携させながら、さらなるアスリートの強化・サポート、および地域連携・社会貢献の展開の他、大学一体となる応援文化の醸成を図り、スポーツを通じた人材の育成を行います。



2016年より掲げている「TOYO SPORTS VISION」



TSCは、「トップアスリートサポートセクション」「スポーツ連携セクション」「マネジメントセクション」の3つのセクションで構成される。

BEAMS SPORTSのデザインしたスポーツシンボルマークを発表

運動部に所属する学生と、一般学生や東洋大学の卒業生、学生の家族などが一体感をもって運動部への応援を盛り上げていくため、そのアイコン機能としてスポーツシンボルマークを導入することにしました。導入にあたっては、スポーツカルチャーの生み出すポジティブなエネルギーを身近に感じるためのきっかけを作るブランドであるBEAMS SPORTSにデザインを担当いただきました。

デザインコンセプトは「鶏」としました。白山キャンパスの付近は、その昔、夜ごと鶏の声をすることを怪しんで土を掘ったところ、金の鶏が掘り出されたという伝説から「鶏声ヶ窪」と呼ばれていたそうです。また、本学前身の「哲学館」の時代に敷地内にあった古井戸が「鶏声ヶ井戸」と言われ、鶏の鳴き声はそこから聞こえたとされていると、本学創立者・井上円了の著作にも記されています。そのようなエピソードをもとに、東洋大学の数多くの学生が伝説の金の鶏となり、世界を舞台に声を上げて羽ばたいていくことを願ってデザインしました。



BEAMS SPORTSがデザインしたスポーツシンボルマーク

東洋大学SPORTS NEWS

スポーツを通じた人材育成を進める東洋大学では、運動部が様々な成果を上げています。サッカー部女子部門の初優勝、アイススケート部ホッケー部門のリーグ優勝など、これまでの主な活動を紹介します。

①サッカー部女子部門 女子部門で悲願の初優勝 第31回全日本大学女子サッカー選手権大会

2022年11月に第36回関東大学女子サッカーリーグ1部で初優勝した本学サッカー部女子部門は、12月24日から開催された第31回全日本大学女子サッカー選手権大会に挑んで決勝まで勝ち進みました。1月6日、東京都・味の素フィールド西が丘で行われた決勝戦では山梨学院大学と対戦。両チームともゴールを譲らない熱戦の末、後半戦で門脇真依選手(食環境科学部3年)

のシュートを相手チームのゴールキーパーが弾き、こぼれ球に反応した北川愛莉選手(食環境科学部4年)がゴールに押し込み、先制しました。この1点を守り抜き東洋大学が1対0で山梨学院大学に勝利し、大学女子サッカー日本一に輝きました。



第31回全日本大学女子サッカー選手権大会で初優勝を果たしたサッカー部女子部門



②アイススケート部ホッケー部門 2022年度関東大学リーグで10度目の優勝 第95回日本学生氷上競技選手権大会で準優勝

2022年度の関東大学リーグ戦で明治大学を下して2年連続10度目の優勝を果たしたアイススケート部ホッケー部門。2022年12月25日にKOSÉ新横浜スケートセンターで開催された第95回日本学生氷上競技選手権大会(インカレ)アイスホッケー競技1stディビジョン・決勝にて、再び明治大学と対戦しました。延長戦にもつれる激闘の末、1対2で惜敗を期して準優勝となりました。

た。個人表彰に石田陸選手(社会学部4年)と阿部泰河選手(社会学部4年)が選ばれました。また、1月12日から22日に開催された国際総合競技大会「FISU 冬季ワールドユニバーシティゲームズ2023」には本学から14名が選出され、1983年のブルガリア大会以来のベスト4へ進出する快挙を達成しています。



第95回日本学生氷上競技選手権大会で準優勝



大会最優秀選手として表彰された石田陸選手(社会学部4年)

③ラグビー部 ラグビー部が創部64年目で初となる全国大学ラグビーフットボール選手権出場

ラグビー部は、2021年12月に開催された関東大学ラグビーリーグ戦1部2部の入れ替え戦を制し、29年ぶりに1部昇格を果たしました。2022年4月から開催された第11回関東大学春季交流大会で5戦を全勝して勢いをつけ、9月に開催された関東大学ラグビーリーグ戦1部第1節では、強豪の東海大学と対戦して27対24で勝利。続く第2節では、関東学院大学に38対31で勝利。第3

節では大東文化大学に惜敗するも第4節で日本大学に33対32で勝利。第5節では流通経済大学に惜敗、第6節で法政大学に勝利。第7節で立正大学も制し、5戦2敗勝ち点22で今季3位となり、関東リーグ1部の上位3校に与えられる全国大学ラグビーフットボール選手権出場権を獲得し、創部64年目で初となる快挙を成し遂げました。



創部64年目で初となる快挙を成し遂げたラグビー部



附属学校・幼稚園

Attached Schools and Kindergarten



詳細はWebでご覧いただけます
For further details, please visit our website.

学校法人東洋大学は東洋大学を中核とし、3つの中学校・高等学校と幼稚園を設置する総合学園です。変化の激しい時代の中で自身の哲学を持ち、明るい未来を担える人材を育成するため、「幼中高大一貫教育」の推進を中期計画に定めています。

Toyo University Incorporated Educational Institution is a comprehensive school, with Toyo University as its core and three junior and senior high schools as well as one kindergarten. In order to develop human resources who have their own unique philosophies and are able to create a bright future in these rapidly changing times, we include the promotion of "integrated education for kindergarten, junior and senior high school and the University" in our medium-term plan.

中学校・高等学校

東洋大学附属姫路中学校・高等学校



東洋大学の建学の精神「諸学の基礎は哲学にあり」に沿って、考える力の育成と校訓「自立・友情・英知」を基礎に据えた教育を行っています。物事の本質を追求するための「考える力」、国際社会で求められる「自分の意見をはっきりと持ち、発信できる力」、社会人に必要な自立心を培い「自らの進路を自分で考え、選択できる力」を3つの柱とし、未来を担うグローバル人材の育成に向けた取り組みを行っています。

附属姫路中学校は姫路市内初の男女共学中高一貫校として2014年に開校。附属姫路高等学校は2023年に創立60周年を迎え、さらなる躍進に向けて様々な挑戦を始めています。2022年からは制服もコース制もリニューアルしました。

東洋大学附属姫路中学校① 教育プログラム「キャリア・フロンティア」

「物事の本質を、深く考える力」を育成する独自の教育プログラム「キャリア・フロンティア」が特徴の東洋大学附属姫路中学校。2022年度も中学1年生の「姫路研究」「哲学講演」、中学2年生の「バイオテクノロジー入門」「広島平和学習」、中学3年生の「京都研究」「沖縄テーマ学習」など、課題発見から解決に至るまで、調査・討論・検証・発表などを通して、考える力や伝える力を育成しています。同プログラムでは、「震災学習」にも重きを置いており、実際に被災地を訪れて自分には何ができるのかを問い考えることで、社会への貢献について向き合います。また、例年中学3年生全員が参加していた海外語学研修は、コロナ禍のため「オンライン国際交流」として実施。対話を通して英語力とコミュニケーション能力を伸ばしました。

東洋大学附属姫路中学校② 2コース制の導入

東洋大学附属姫路中学校は、2022年度の入学生から入学定員を30名増やして、合計90名としました。あわせて、「一貫SPコース」と「一貫SAコース」の2コース制を導入。「一貫SPコース」は、現在の最難関大学入試に対応する「新しい学力」の修得を目標に、探究活動や実験などを通じて、より深い学びに誘いながら、最難関国公立大学合格をめざします。「一貫SAコース」は、これまでの中高一貫コースの学びを継承し、ひとりひとりの個性に応じたきめ細かい教育を展開し、基礎を築き、探究活動や実験を通じて応用力を育てます。この2つのコースを軸として、生徒の進路希望に応じた教育を展開しています。どちらのコースともカリキュラムを同じにしており、学年が上がるごとに、学習意欲と学習成績に応じてコースを変更することも可能です。



中学2年生「バイオテクノロジー入門」での発表



一貫SPコースでの学びの風景

東洋大学附属姫路高等学校① 地域活性部「PROJECT TOYO」の躍進

東洋大学附属姫路高等学校の地域活性部が、「PROJECT TOYO」として活動の幅を広げています。これまでに、地元の伝統野菜を復活させたり、獣害駆除の対象となった鹿肉の有効活用などが評価され、多くの賞を受賞していました。2022年度も、農林水産省第6回食育活動表彰「消費・安全局長賞」、ひょうごSDGsスクールアワード2022「最優秀賞」、第10回高校生ビジネスプラン・グランプリ「ベスト100受賞」、アグリテック甲子園「カルビーポテト賞」など、活動が評価されました。「PROJECT TOYO」では、地域で衰退しつつある産物や不要とされてきたものに焦点をあて、地域資源として認知してもらえるよう、魅力あるものとして商品化し、周知活動に取り組んでいます。資源を大切に工夫を次々に創造することで、地域の魅力を発信していきます。



第6回食育活動表彰の表彰式

東洋大学附属姫路高等学校② 野球部の屋内練習場完成

東洋大学附属姫路高等学校野球部は、激戦区の兵庫県にあって、春8回、夏12回の甲子園出場を果たし、1977（昭和52）年夏には全国優勝を飾るなど、輝かしい実績を誇る名門。2022年4月1日に就任した岡田龍生監督の指導の下、伝統の守備力に加え、打撃力の向上を図りながら、日々練習を重ねています。2022年6月19日には、野球部の練習環境の向上を図るため、「打越野球グラウンド室内練習場」を新設。教頭をはじめ大学関係者および、設計・工事関係者等の列席のもと竣工式を挙行了しました。



打越野球グラウンド室内練習場・外観



6レーンの投球および打撃練習場に3種類のピッチングマシンを設置

東洋大学附属牛久中学校・高等学校



2021年4月に文部科学省の「スーパーグローバルハイスクール（SGH）ネットワーク参加校」に認定され、スーパーグローバル大学の附属校として、中高大連携によるグローバル人材育成教育を進めています。海外語学研修、国際交流活動、ディベートなどの多彩な教育内容により、確かな語学力を身につけ、多様性の理解を進めます。さらに、オリジナル教科である「グローバル探究」（哲学・国際理解・教養・課題研究・キャリア）を通し、未来へ踏み出す力を育成します。高等学校には、生徒の個性に合わせた5つのコース（特別進学・グローバル・進学・スポーツサイエンス・中高一貫）を設置。附属中学校から内部進学した中高一貫コースの生徒は、教育課程を早期修了し、希望進路の実現を目指します。

東洋大学附属牛久中学校① グローバル講演会2022「医師という仕事」

2022年6月14日に筑波大学附属病院の宮崎貴寛先生をお招きして、「医師という仕事」をテーマとしたグローバル講演会を行いました。講堂には中学校の全学年が集まり、先生ご自身の医師としての日ごろの業務についての話から、学生時代の話、趣味の話、筑波大学についての話など内容は多岐に渡りました。宮崎先生の問いかけに対して、積極的に挙手して発言する生徒の姿も多く見られました。講演後は時間いっぱいまで質問が殺到し、「医師という仕事に対してのイメージが変わった」「前よりも興味を持つことができた」「仕事の意味を少し理解できたように感じた」など感想も多く上がりました。将来の職業選択や大学の選択について考える良いきっかけとして、引き続きグローバル講演会を企画していきます。



宮崎貴寛先生の講演中の様子

東洋大学附属牛久中学校② 法務省からの感謝状

法務省および全国人権擁護委員連合会が主催する「全国中学生人権作文コンテスト」は、日常の家庭生活や学校生活等の中で得た体験に基づく作文を書くことを通して、人権尊重の大切さや基本的人権についての理解を深め、豊かな人権感覚を身に付けることを目的として実施されています。2022年の「第41回全国中学生人権作文コンテスト」において、東洋大学附属牛久中学校の生徒が夏休みの課題として取り組んだ「人権作文」を応募したところ、生徒たちの作品の全体的な質の高さが評価され、法務省人権擁護局長および全国人権擁護委員連合会会長より感謝状をいただきました。人権のみならず、これからも身近な問題から世界の様々な課題まで、広く関心を持ち続けられるような教育を実施していきます。



贈呈された感謝状とともに

東洋大学附属牛久高等学校① 2022年度全国高校生フォーラム出場

文部科学省と筑波大学が共催する高校生の研究発表大会「全国高校生フォーラム」に、東洋大学附属牛久高等学校の中高一貫コース高校2年生の3名が出場しました。2022年度はオンライン開催で、各事業の計122校の高校生や「アジア高校生架け橋プロジェクト」来日留学生らが参加しました。文科省の展開するWWLコンソーシアムおよびSGHネットワーク参加校に参加権利があり、茨城県内では本校のみとなります。生徒用の自由実験室「課題探究工房」で海水実験システムを組み上げ、アルテミアの飼育から始めてpH変化に対する応答まで、これらの研究を1年間かけて完成させました。「Marine pollution（海洋汚染）」のプレゼンテーション、質疑応答、マイクロプラスチックに関するディスカッション等をすべて英語で行い、生徒にとっても貴重な体験となりました。



3名が一丸となって取り組んでいる様子

東洋大学附属牛久高等学校② 英語プレゼンテーションフォーラムで県教育長賞

2022年8月30日、茨城県のつくば国際会議場において、英語での表現力を競う「英語プレゼンテーションフォーラム県大会」が開催されました。このフォーラムは、英語を通じて課題を発見、解決し、自らの考えや気持ちを積極的に発信する力を高めることを目的に企画されており、2022年度は49組が参加。東洋大学附属牛久高等学校から出場した中高一貫コースおよびグローバルコースの生徒で編成されたチームが、Advancedグループで県教育長賞（第3位）を受賞しました。生徒たちは「グローバル探究」の集大成となる科目「課題研究」において、菌類を用いたバイオエタノール生成の研究を行っており、その研究成果について英語で存分に発表することができました。



受賞の喜びを表すチームのメンバー

東洋大学京北中学高等学校



大学附属の男女共学・中高一貫教育校として、附属校のメリットを最大限に活かしながら国公立大学や難関私立大学への進学を目指しています。「より良く生きる」をテーマとした哲学教育（生き方教育）、国際社会で活躍できる力を身に付ける国際教育、そして自己の人生を意欲的に創造するキャリア教育を3本の柱として強力に実践しています。数学・理科・情報に対する生徒たちの興味・関心を高めることを目的とした「KSST（京北スーパーサイエンスチーム）」の活動も推進し、東洋大学の生命科学部、食環境科学部、文学部（教育学科）との連携プログラムである「未来の科学者育成プロジェクト」に参加するなど、理科教育にも強い学校の実現を目指します。

東洋大学京北中学校 「未来の科学者育成プロジェクト」研究報告会

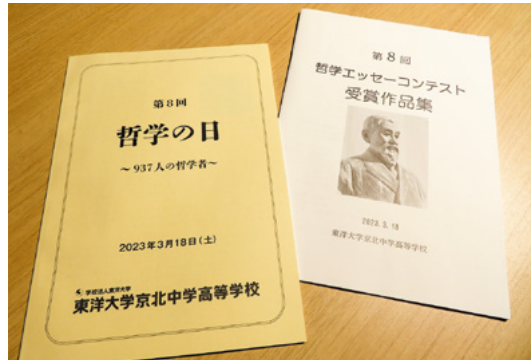
2023年3月16日に、2022年度「未来の科学者育成プロジェクト」研究報告会を開催。本プロジェクトも年々活動が本格化してきており、2021年度の参加生徒の中からは、念願の学会発表を果たした生徒も出てきました。そのため2022年度は、チームAからチームEまでの5チームに加え、学会発表を行った高校生のチームも含めての報告会となりました。当日の発表では、各チームが研究内容をわかりやすくまとめ、初めて聞く人たちに興味をもってもらうための工夫を凝らしたプレゼンを披露。発表後は、国立天文台ハワイ観測所カリフォルニア事務所所属TMT担当の林左絵子先生によるZoomを用いた講演会も行われ、最新の宇宙開発に関わる貴重なお話を聴くこともできました。講演を受けた後の質疑応答の時間にはたくさんの質問も出て、とても有意義な時間となりました。



発表スライドを投影しながらのプレゼンテーション

東洋大学京北中学高等学校① 2022年度「哲学の日」

学祖である井上円了先生の誕生日である3月18日に、毎年全校で「哲学の日」を実施しています。「哲学の日」は、1年間にわたって実施してきた哲学の学びの成果を全校生徒で共有し合う場であり、建学の理念「諸学の基礎は哲学にあり」を掲げる本校にとって、欠かすことのできない大切な行事です。アスペン研究所主催の「アスペン・ジュニア・セミナー」では、古典作品を通して、「よく生きる」ことを考える活動に参加したこと、「哲学ラボ」（創造力育成プログラム）では、知的財産に関する学習や、弁理士会主催の発明コンテストに応募し、英語による発表を行なったこと、他にも「刑事裁判傍聴学習会」や「哲学ゼミ」など様々な報告がありました。最後に「哲学教育」の学びの集大成として行われる「哲学エッセーコンテスト」の優秀賞の表彰と質疑応答が行われました。



「哲学の日」パンフレット

東洋大学京北中学高等学校② 「国内英語キャンプ」実施

東洋大学京北中学高等学校では夏休み期間に、1週間英語漬けの環境で学ぶ「セブ島英語研修」と2週間のホームステイを通して異文化に触れる「オレゴンサマープログラム」（高校のみ）を実施しています。コロナ禍の2022年度は、これらの海外研修は実施を見合わせていましたが、これらに代わる英語キャンプのプログラムとして、国内でできる英語漬けの研修「国内英語キャンプ」を東洋大学河口湖セミナーハウスで実施しました。東洋大学はスーパーグローバル大学関連事業の一環として、多くの英語講師をフィリピンセブ島から招き、英語教育の充実を図っています。この「国内英語キャンプ」では東洋大学の河口湖にある研修施設にて、招聘しているフィリピン人講師の指導のもと、1週間の英語集中特訓を行いました。



河口湖の研修施設で行われた「国内英語キャンプ」の様子

東洋大学京北高等学校 「子どもの哲学国際学会」参加

2022年8月10日に立教大学で行われた「第20回子どもの哲学国際学会 東京大会（ICPIC）」において、東洋大学京北高等学校の高校2年生の2名がプレゼンテーション発表を行いました。ICPICとは、2年に一度行われている実践的な哲学探究の国際学会で、2022年に初めて日本で開催され、30を超える国から哲学探究の研究者・実践者が参加しました。発表のタイトルは「高校生による自己の存在の模索～教室を越えた哲学的対話～（"Two high school students pursue: the reason for core identity"）」。発表に向けて、全校生徒・保護者・教員向けのアンケート調査を行い、その調査結果をもとに卒業生や外部の大学生を交えてp4c（哲学対話）を重ねました。当日は、すべて英語で用意したスライドを使って発表し、会場からの質問にも丁寧に回答して、60分間の発表を立派にやり遂げました。



作成したスライドをもとに発表する様子

幼稚園

京北幼稚園



人間形成の基礎をつくる最も貴重な幼児期に、同年齢・異年齢の幼児が交流し、成長段階に適切な遊びを中心とする生活を通して、身の回りの物事に興味や関心を示し、自分でやってみようとする行いや自主性を育成していくことを目指しています。この方針に基づき、各クラスとも成長段階にふさわしい年間・学期・月間・週間のカリキュラム（指導目標）を設定して、ステップバイステップを基本として自由な活動とクラスでまとまって行う活動を組み合わせた保育を行っています。例としてネイティブスピーカーによる月2回の「英語で遊ぶ」時間や、こども体育研究所の専門講師による体育指導などを実施しています。同時に、教員の研修活動にも取り組んでおり、常に保育内容や技術のレベルアップを心掛けています。



基礎データ Basic Data

掲載データは本書発行時期における最新の集計結果を掲載しております。
発行後に更新される情報は本学Webサイトでご確認ください。



入試データ (2023年度入試実績) Entrance Exam Data

在籍学生数 (2023年5月1日現在暫定数)

学部 (第1部)	男性	女性	合計
文学部	1,675	1,863	3,538
経済学部	1,878	715	2,593
経営学部	1,826	1,026	2,852
法学部	1,331	771	2,102
社会学部	1,161	1,791	2,952
理工学部	2,839	567	3,406
国際地域学部 ^{※1}	2	1	3
国際学部	715	957	1,672
国際観光学部	473	1,032	1,505
生命科学部	604	313	917
ライフデザイン学部	630	1,048	1,678
総合情報学部	820	252	1,072
食環境科学部	297	533	830
情報連携学部	1,196	264	1,460
福祉社会デザイン学部	138	352	490
健康スポーツ科学部	155	184	339
合計	15,740	11,669	27,409

※1 2017年4月、国際地域学部を国際学部および
国際観光学部に変更

学部 (第2部)	男性	女性	合計
文学部	301	212	513
経済学部	540	108	648
経営学部	335	130	465
法学部	378	129	507
社会学部	359	252	611
合計	1,913	831	2,744

通信教育課程

	男性	女性	合計
合計	35	68	103

大学院

研究科	男性	女性	合計
文学研究科	55	49	104
社会学研究科	30	26	56
法学研究科	12	10	22
経営学研究科	58	21	79
理工学研究科	194	50	244
経済学研究科	54	19	73
国際学研究科	31	29	60
国際観光学研究科	18	22	40
国際地域学研究科 ^{※2}	2	0	2
生命科学研究科	45	31	76
社会福祉学研究科	17	20	37
ライフデザイン学研究科	26	29	55
福祉社会デザイン研究科 ^{※3}	6	2	8
学際・融合科学研究科	4	2	6
総合情報学研究科	44	23	67
食環境科学研究科	6	7	13
情報連携学研究科	20	5	25
健康スポーツ科学研究科	23	7	30
合計	645	352	997

※2 2018年4月、国際地域学研究科を国際学研究科
および国際観光学研究科に変更

※3 2018年4月、福祉社会デザイン研究科を社会福
祉学研究科、ライフデザイン学研究科および社会
学研究科福祉社会システム専攻に変更

附属学校等

学校名	男性	女性	合計
附属姫路高等学校	796	428	1,224
附属牛久高等学校	879	831	1,710
東洋大学京北高等学校	428	403	831
高等学校合計	2,103	1,662	3,765
附属姫路中学校	144	101	245
附属牛久中学校	96	108	204
東洋大学京北中学校	173	224	397
中学校合計	413	433	846
京北幼稚園	48	40	88

キャンパス別学生数 (学部第1部・第2部、大学院)

キャンパス	男性	女性	合計
白山キャンパス	11,058	8,882	19,940
川越キャンパス	3,901	894	4,795
板倉キャンパス	952	884	1,836
赤羽台キャンパス	2,387	2,192	4,579
合計	18,298	12,852	31,150

専任教員数 (2023年5月1日現在)

白山キャンパス	学部	教授	准教授	講師 (契約教授含む)	助教	小計	助手	合計
	文学部	65	15	3	8	91	0	91
	経済学部	38	17	9	4	68	0	68
	経営学部	30	29	5	3	67	0	67
	法学部	35	17	4	2	58	0	58
	社会学部	38	16	6	5	65	0	65
	国際学部	24	10	6	1	41	0	41
	国際観光学部	18	9	8	2	37	0	37
	白山キャンパス合計	248	113	41	25	427	0	427

川越キャンパス	学部	教授	准教授	講師 (契約教授含む)	助教	小計	助手	合計
	理工学部	55	29	1	4	89	0	89
	総合情報学部	16	8	1	4	29	0	29
	川越キャンパス合計	71	37	2	8	118	0	118

附属学校等教員数

学校名	教諭	助教諭	講師	助手	合計
附属姫路中学校	14	0	0	0	14
附属姫路高等学校	69	0	0	0	69
附属牛久中学校	13	0	1	0	14
附属牛久高等学校	79	1	2	0	82

事務職員数 (2023年5月1日現在)

身分	職員数
参事	13
副参事	21
主事	64
主事補	74
書記	236
事務職員	9
特任職員	1
専任職員等小計	418
常勤嘱託	89
特別嘱託	14
嘱託小計	103
合計	521

附属学校等

学校名	参事	副参事	主事	主事補	書記	特任職員	常勤嘱託	特別嘱託	職員合計
附属姫路中学校・高等学校事務室	0	0	0	1	3	0	7	0	11
附属牛久中学校・高等学校事務室	0	0	1	1	2	0	2	1	7
京北事務室	0	0	1	3	2	1	1	1	9
合計	0	0	2	5	7	1	10	2	27

共通テスト利用入試・一般入試・多面的評価入試・実技入試 (第1部)

学部	学科(専攻)	志願者数	合格者数
文学部	哲学科	1,088	310
	東洋思想文化学科	825	359
	日本文学文化学科	2,021	550
	英米文学科	1,607	627
	史学科	2,241	765
	教育学科(人間発達専攻)	1,348	530
	教育学科(初等教育専攻)	991	306
	国際文化コミュニケーション学科	1,246	455
文学部 合計	11,367	3,902	
経済学部	経済学科	5,689	1,699
	国際経済学科	1,912	671
	総合政策学科	1,829	671
経済学部 合計	9,430	3,041	
経営学部	経営学科	7,898	1,880
	マーケティング学科	3,449	811
	会計ファイナンス学科	2,588	889
経営学部 合計	13,935	3,580	
法学部	法律学科	4,080	1,392
	企業法学科	2,426	901
法学部 合計	6,506	2,293	
社会学部	社会学科	3,323	969
	国際社会学科	1,889	784
	メディアコミュニケーション学科	2,630	690
	社会心理学科	2,411	659
社会学部 合計	10,253	3,102	
国際学部	グローバル・イノベーション学科	1,399	485
	国際地域学科(国際地域専攻)	2,568	996
国際学部 合計	3,967	1,481	
国際観光学部	国際観光学科	3,354	1,121
国際観光学部 合計	3,354	1,121	
情報連携学部	情報連携学科	4,163	1,328
情報連携学部 合計	4,163	1,328	
福祉社会デザイン学部	社会福祉学科	1,196	701
	子ども支援学科	683	274
	人間環境デザイン学科	805	384
福祉社会デザイン学部 合計	2,684	1,359	
健康スポーツ科学部	健康スポーツ科学科	2,299	608
	栄養科学科	515	245
健康スポーツ科学部 合計	2,814	853	
理工学部	機械工学科	2,158	1,037
	生体医工学科	703	508
	電気電子情報工学科	1,647	696
	応用化学科	1,587	882
	都市環境デザイン学科	1,282	667
	建築学科	1,738	616
	理工学部 合計	9,115	4,406
総合情報学部	総合情報学科	2,390	728
総合情報学部 合計	2,390	728	
生命科学部	生命科学科	1,431	516
	応用生物科学科	1,135	458
生命科学部 合計	2,566	974	
食環境科学部	食環境科学科(フードサイエンス専攻)	746	267
	健康栄養学科	566	211
食環境科学部 合計	1,312	478	
第1部 合計	83,856	28,646	

大学院 博士前期・修士課程

研究科	志願者数		合格者数	
	秋入学	4月入学	秋入学	4月入学
文学研究科	57	30	57	30
社会学研究科	78	22	78	22
法学研究科	18	10	18	10
経営学研究科	1	38	1	38
理工学研究科	6	115	6	115
経済学研究科	12	35	12	35
国際学研究科	23	10	23	10
国際観光学研究科	4	11	4	11
社会福祉学研究科	42	18	42	18
生命科学研究科	3	42	3	42
ライフデザイン学研究科	21	12	21	12
総合情報学研究科	1	24	1	24
食環境科学研究科	0	8	0	8
情報連携学研究科	2	10	2	10
健康スポーツ科学研究科	29	26	29	26
合計	52	411	52	411

大学院 博士後期課程

研究科	志願者数		合格者数	
	秋入学	4月入学	秋入学	4月入学
文学研究科	9	8	9	8
社会学研究科	5	2	5	2
法学研究科	3	3	3	3
経営学研究科	0	3	0	3
理工学研究科	0	2	0	2
経済学研究科	3	3	3	3
国際学研究科	2	2	2	2
国際観光学研究科	0	3	0	3
社会福祉学研究科	4	2	4	2
生命科学研究科	0	1	0	1
ライフデザイン学研究科	6	4	6	4
総合情報学研究科	3	1	3	1
食環境科学研究科	0	0	0	0
情報連携学研究科	0	0	0	0
健康スポーツ科学研究科	6	5	6	5
合計	5	39	5	39

附属学校等

学校名	志願者数	合格者数
附属姫路中学校	301	166
附属姫路高等学校	3,901	3,883
附属牛久中学校	248	207
附属牛久高等学校	2,029	1,541
東洋大学京北中学校	1,106	246
東洋大学京北高等学校	1,189	457
京北幼稚園	31	31



就職データ

(2022年度実績) Employment Data

学部別進路状況 (学部第1部)

学部		就職率	就職者率	進学率	進路決定率
文学部	男	97.6%	83.6%	5.3%	88.9%
	女	97.9%	83.9%	2.9%	86.8%
	計	97.8%	83.8%	4.0%	87.7%
経済学部	男	97.7%	84.4%	2.8%	87.2%
	女	100.0%	85.6%	5.0%	90.6%
	計	98.3%	84.7%	3.4%	88.2%
経営学部	男	97.7%	87.0%	3.3%	90.3%
	女	99.1%	90.6%	2.5%	93.0%
	計	98.3%	88.4%	3.0%	91.4%
法学部	男	98.1%	84.7%	2.3%	87.0%
	女	97.2%	80.9%	4.6%	85.5%
	計	97.8%	83.3%	3.2%	86.5%
社会学部	男	97.3%	84.8%	2.7%	87.5%
	女	98.3%	87.5%	4.2%	91.6%
	計	97.9%	86.3%	3.6%	89.9%
国際学部	男	95.3%	78.2%	5.1%	83.3%
	女	98.4%	79.9%	8.2%	88.1%
	計	97.4%	79.3%	7.2%	86.5%
国際観光学部	男	97.8%	88.9%	1.0%	89.9%
	女	99.6%	93.5%	2.4%	95.9%
	計	99.1%	92.2%	2.0%	94.2%

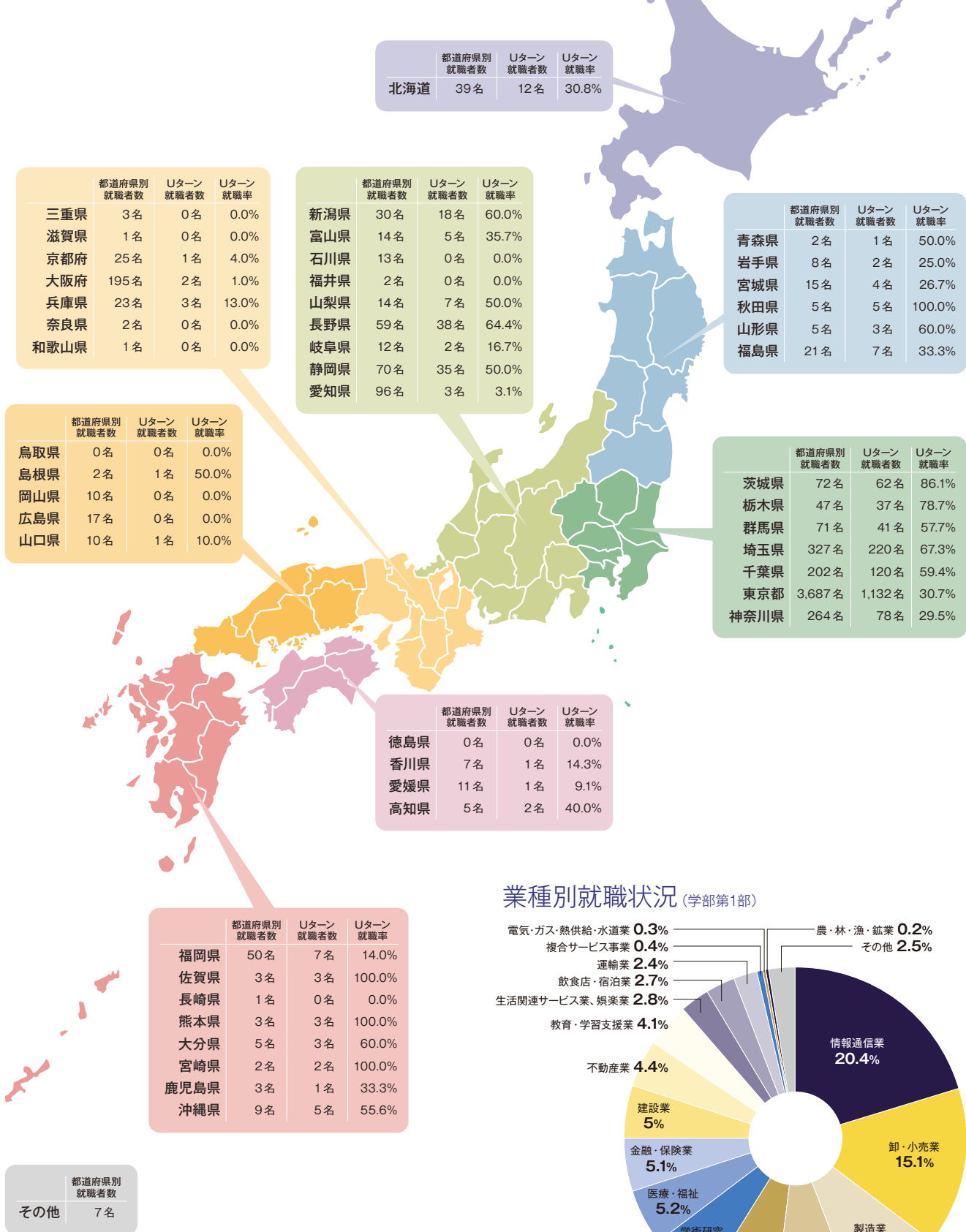
学部		就職率	就職者率	進学率	進路決定率
ライフデザイン学部	男	100.0%	87.2%	3.7%	90.9%
	女	98.9%	88.5%	2.5%	91.1%
	計	99.4%	88.0%	3.0%	91.0%
理工学部	男	98.3%	72.2%	21.7%	93.8%
	女	100.0%	69.1%	25.7%	94.9%
	計	98.6%	71.6%	22.4%	94.0%
総合情報学部	男	97.5%	84.0%	6.4%	90.4%
	女	98.1%	91.2%	5.3%	96.5%
	計	97.7%	85.7%	6.1%	91.8%
生命科学部	男	93.4%	65.4%	19.2%	84.6%
	女	97.6%	61.5%	24.6%	86.2%
	計	94.7%	64.1%	21.0%	85.1%
食環境科学部	男	98.4%	77.9%	14.3%	92.2%
	女	97.3%	86.6%	6.3%	92.9%
	計	97.7%	83.3%	9.3%	92.6%
情報連携学部	男	95.7%	86.9%	4.6%	91.5%
	女	100.0%	93.0%	0.0%	93.0%
	計	96.6%	88.1%	3.7%	91.8%
合計	男	97.6%	82.1%	7.5%	89.6%
	女	98.6%	85.4%	5.4%	90.8%
	計	98.0%	83.5%	6.6%	90.2%

就職率=就職者数÷就職希望者数(就職者数+卒業時点で就職活動中の者)×100
就職者率=就職者数÷卒業生数×100
進学率=進学人数÷卒業生数×100
進路決定率=(就職者数+進学人数)÷卒業生数×100
※学部名については卒業生在籍時の名称を適用

主な就職先

【第1部文学部】 東京都教育委員会 埼玉県教育委員会 特別区(区役所) 千葉県教育委員会 茨城県教育委員会 (株)マイナビ サントリー(株) ソフトバンクグループ(株) 三菱自動車工業(株) 凸版印刷(株)	【第1部社会学部】 特別区(区役所) (株)ベネッセスタイルケア 警視庁 日本年金機構 (株)マイナビ 東京都庁 (株)USEN-NEXT HOLDINGS (株)時事通信社 TOTO(株) 東京海上日動火災保険(株)	【生命科学部】 キュービー(株) 茨城県教育委員会 高田製薬(株) (株)スズケン (株)ファンケル (株)新日本科学 エイソーヘルスケア(株)(伊藤忠グループ) ブルドックソース(株) 荏原実業(株) 埼玉県庁	【情報連携学部】 チームラボ(株) アクセンチュア(株) (株)カブコン (株)日本経済新聞社 (株)野村総合研究所 セイコーエプソン(株) 厚生労働省 東急建設(株) 凸版印刷(株) 富士通(株)
【第1部経済学部】 特別区(区役所) 埼玉県庁 神奈川県庁 アクセンチュア(株) 東京海上日動火災保険(株) 東京国税局 東京都庁 Apple Japan(同) カルビー(株) 日本アイ・ビー・エム(株)	【第1部国際学部】 (株)JALスカイ (株)小学館 ANAエアポートサービス(株) ANA成田エアポートサービス(株) NTTコミュニケーションズ(株) アクセンチュア(株) みずほ証券(株) 楽天グループ(株) 千葉市役所 日本航空(株)	【ライフデザイン学部】 特別区(区役所) さいたま市役所 SOMPOケア(株) (株)ベネッセスタイルケア (株)日本保育サービス(JPホールディングスグループ) (福)つばみ会 (株)カインズ 北海道教育委員会 (株)ルネサンス 大和ハウス工業(株)	【第1部全学部】 特別区(区役所) 東京都教育委員会 警視庁 埼玉県教育委員会 東京都庁 (株)セブン-イレブン・ジャパン 東日本旅客鉄道(株)(JR東日本) (株)JT B アクセンチュア(株) チームラボ(株)
【第1部経営学部】 アマゾンジャパン(同) マルハニチロ(株) 東京国税局 (株)Mizkan (株)NTTドコモ (株)キーエンス (株)パイロットコーポレーション (株)みずほフィナンシャルグループ ユニ・チャーム(株) 日本電気(株)(NEC)	【第1部国際観光学部】 (株)JALスカイ (株)JT B (株)ミリアルリゾートホテルズ (株)星野リゾート ANAエアポートサービス(株) 東日本旅客鉄道(株)(JR東日本) (株)ニトリホールディングス (株)ヤクルト本社 ANA成田エアポートサービス(株) 総務省	【総合情報学部】 キャノンITソリューションズ(株) (株)NTTドコモ (株)バンダイナムコオンライン (株)ロッテ ソフトバンク(株) チームラボ(株) マツダ(株) ヤフー(株) 東日本旅客鉄道(株)(JR東日本) 日本製鉄(株)	【第2部全学部】 特別区(区役所) (株)ベネッセスタイルケア イオンリテール(株) 埼玉県教育委員会 日本郵便(株) (株)パイロットコーポレーション (株)電通 パナソニックホールディングス(株) ヤフー(株) 国土交通省
【第1部法学部】 特別区(区役所) 警視庁 東京国税局 さいたま市役所 千葉県庁 (株)千葉銀行 (株)ソニー・ミュージックエンタテインメント (株)バンダイ (株)集英社 東京都庁	【理工学部】 大和ハウス工業(株) 東日本旅客鉄道(株)(JR東日本) 東京都庁 清水建設(株) 山崎製パン(株) スズキ(株) シャープ(株) (株)日立製作所 (株)資生堂 (株)IHI	【食環境科学部】 (株)ファミリーマート (株)フルボン 日清医療食品(株) (株)Mizkan (株)なとり (株)桃屋 (独)地域医療機能推進機構 大阪病院 ホクト(株) 公益(財)がん研究会 有明病院 西東京市役所	

都道府県別／Uターン就職状況





国際交流データ International Exchange Data

留学生数・留学者数

派遣留学者数 (中途帰国者を含む)

プログラム名	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
交換留学(派遣)	152	161	12	70	145
認定留学	25	18	4	2	
協定校語学留学	180	179	36	0	108
語学セミナー*	156	180	57	153	155
合計	513	538	109	225	408

※国際教育センター主催のプログラムのみを対象
※2020・2021年度は新型コロナウイルスの影響によりオンラインで実施
※2022年度は実渡航とオンラインの両参加人数を含む

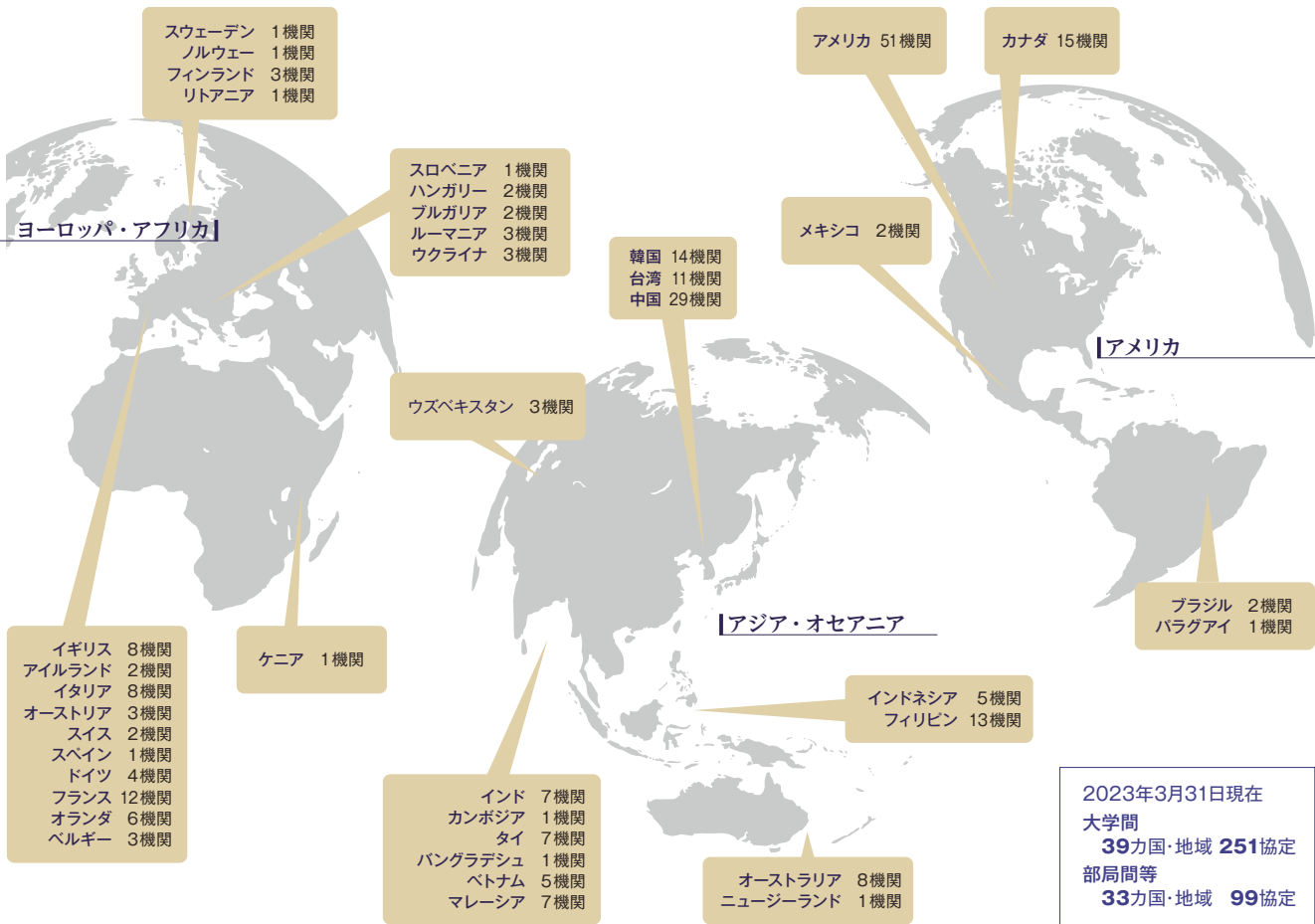
受入留学者数

プログラム名	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
交換留学(受入)	132	194	4	44	203

国費留学生受入数 (延べ人数)

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
大学院	22	24	15	11	9

大学間海外協定先等一覧 (2023年3月31日現在)



出身国別留学者数 (2023年5月1日現在)

掲載データは本書発行時期における最新の集計結果を掲載しております。発行後に更新される情報は本学Webサイトでご確認ください。

アメリカ	学部合計2 総合計2	アルメニア共和国	学部合計1 総合計1	イギリス	学部合計1 総合計1	イタリア	学部合計1 総合計1	インド	学部合計1 総合計1	インドネシア	学部合計8 大学院合計6 総合計14	ウズベキスタン	学部合計5 大学院合計6 総合計11	エジプト	大学院合計1 総合計1
ガーナ	大学院合計1 総合計1	カタール	学部合計1 総合計1	カナダ	学部合計2 大学院合計3 総合計5	韓国(・朝鮮)	学部合計109 大学院合計112 総合計221	カンボジア	学部合計5 大学院合計5 総合計10	ケニア共和国	学部合計2 大学院合計2 総合計4	コートジボワール共和国	学部合計1 総合計1	コンゴ民主共和国	学部合計1 総合計1
米国領サモア	大学院合計1 総合計1	スーダン	大学院合計1 総合計1	スペイン	学部合計1 総合計1	スリランカ	大学院合計4 総合計4	ソマリア	学部合計2 大学院合計2 総合計4	タイ	学部合計6 総合計6	台湾	学部合計13 総合計13	タンザニア	大学院合計2 総合計2
中国	学部合計 925 大学院合計 205 総合計1130	チュニジア	大学院合計1 総合計1	ドイツ	学部合計1 総合計1	トルコ	学部合計1 大学院合計2 総合計3	トンガ王国	学部合計1 総合計1	ナイジェリア	大学院合計1 総合計1	ニュージーランド	学部合計3 総合計3	ネパール	学部合計1 総合計1
パキスタン	大学院合計1 総合計1	バブアニューギニア	大学院合計2 総合計2	バングラデシュ	学部合計3 総合計3	フィジー	学部合計1 総合計1	フィリピン	学部合計9 総合計9	ブラジル	大学院合計1 総合計1	フランス	学部合計4 総合計4	ブルガリア	学部合計4 総合計4
ベトナム	学部合計45 大学院合計 4 総合計49	ポーランド共和国	学部合計2 総合計2	マダガスカル共和国	学部合計1 総合計1	マラウイ共和国	大学院合計4 総合計4	マレーシア	学部合計29 総合計29	南アフリカ	学部合計2 大学院合計3 総合計5	南スーダン	大学院合計2 総合計2	ミャンマー	学部合計8 大学院合計1 総合計9
モザンビーク	学部合計1 大学院合計1 総合計2	モンゴル	学部合計12 総合計12	ラオス人民民主共和国	学部合計1 総合計1	ルワンダ	大学院合計3 総合計3	ロシア	学部合計1 総合計1						

学部(第1部) 合計1,204名
大学院合計262名 総計1,466名



図書館データ／学位授与状況／教職データ

Library Data / Degree Conferral Status / Application Status for a Teaching Licence

図書館データ

図書所蔵数 (2023年3月31日現在)

	和書	洋書	合計
白山図書館	745,563	221,361	966,924
川越図書館	147,297	59,583	206,880
板倉図書館	71,990	10,545	82,535
赤羽台図書館	252,221	24,493	276,714

雑誌所蔵タイトル数 (2023年3月31日現在)

	和雑誌	洋雑誌	合計
白山図書館	7,216	3,556	10,772
川越図書館	1,025	1,359	2,384
板倉図書館	325	185	510
赤羽台図書館	1,616	466	2,082

入館者数 (2022年度開館日)

	開館日数	延べ入館者数
白山図書館	299	355,622
川越図書館	274	103,160
板倉図書館	277	48,928
赤羽台図書館	217	24,664

学位授与状況 (2022年4月1日～2023年3月31日授与)

	9月修了		3月修了		博士 (論文)
	修士	博士 (課程)	修士	博士 (課程)	
文学研究科	1	0	18	3	3
社会学研究科	0	0	16	3	0
法学研究科	0	0	7	1	0
経営学研究科	0	0	42	0	0
理工学研究科	1	0	86	1	0
経済学研究科	7	0	23	0	0
国際学研究科	11	1	6	4	0
国際観光学研究科	1	1	13	0	0
国際地域学研究科		0		1	0

	9月修了		3月修了		博士 (論文)
	修士	博士 (課程)	修士	博士 (課程)	
生命科学研究科	2	0	23	0	0
社会福祉学研究科	0	0	8	0	0
ライフデザイン学研究科	1	0	26	1	0
福祉社会デザイン研究科	0	1	1	3	0
学際・融合科学研究科	0	0	4	0	0
総合情報学研究科	4	0	8	0	0
食環境科学研究科	0	0	8	3	0
情報連携学研究科	0		6	1	
合計	34	3	295	21	3

教育職員免許状申請状況 (2023年3月1日現在)

白山キャンパス

	学部	申請者数	小1種	中1種			高1種								特支1種	教科計
				国語	社会	英語	国語	書道	地歴	公民	商業	英語	福祉	情報		
第1部	文学部	147	38	27	56	15	28	1	61	47	0	16	0	0	19	308
	経済学部	2	0	0	2	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	6
	経営学部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	法学部	6	0	0	6	0	0	0	6	6	0	0	0	0	0	18
	社会学部	7	0	0	6	0	0	0	6	7	0	0	0	0	0	19
	科目等履修生	5	0	2	2	0	2	0	2	0	0	0	0	0	1	9
	第1部合計	167	38	29	72	15	30	1	77	62	0	16	0	0	20	360
第2部	文学部	18	0	5	9	0	6	0	10	8	0	0	0	0	0	38
	経済学部	3	0	0	3	0	0	0	3	3	0	0	0	0	0	9
	経営学部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	法学部	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	社会学部	6	0	0	5	0	0	0	4	3	0	0	0	0	0	12
	科目等履修生	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	第2部合計	29	0	5	17	0	6	0	18	15	0	0	0	0	0	61
白山キャンパス 合計		196	38	34	89	15	36	1	95	77	0	16	0	0	20	421

赤羽台キャンパス

学部	申請者数	幼1種	養1種	中1種			高1種				教科計
				保健	保健体育	保健	保健体育	工業	工芸	福祉	
ライフデザイン学部	127	81	15	5	26	5	27	5	2	0	166
科目等履修生	2	0	0	0	2	0	2	0	0	0	4
赤羽台キャンパス 合計	129	81	15	5	28	5	29	5	2	0	170

川越キャンパス

学部	申請者数	中1種		高1種				教科計
		数学	理科	数学	理科	情報	工業	
理工学部	38	16	21	17	22	0	5	81
総合情報学部	4	0	0	0	0	4	0	4
川越キャンパス 合計	42	16	21	17	22	4	5	85

専修免許状

研究科	申請者数	小専修	中専修							高専修							特支専修	教科計
			国語	社会	英語	数学	理科	宗教	国語	地歴	公民	英語	数学	理科	宗教	工業		
文学研究科	4	0	2	2	0	0	0	0	2	2	1	0	0	0	0	0	0	9
経済学研究科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
法学研究科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
社会学研究科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
理工学研究科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
生命科学研究科	2	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	4
専修免許状 合計	6	0	2	2	0	0	2	0	2	2	1	0	0	2	0	0	0	13

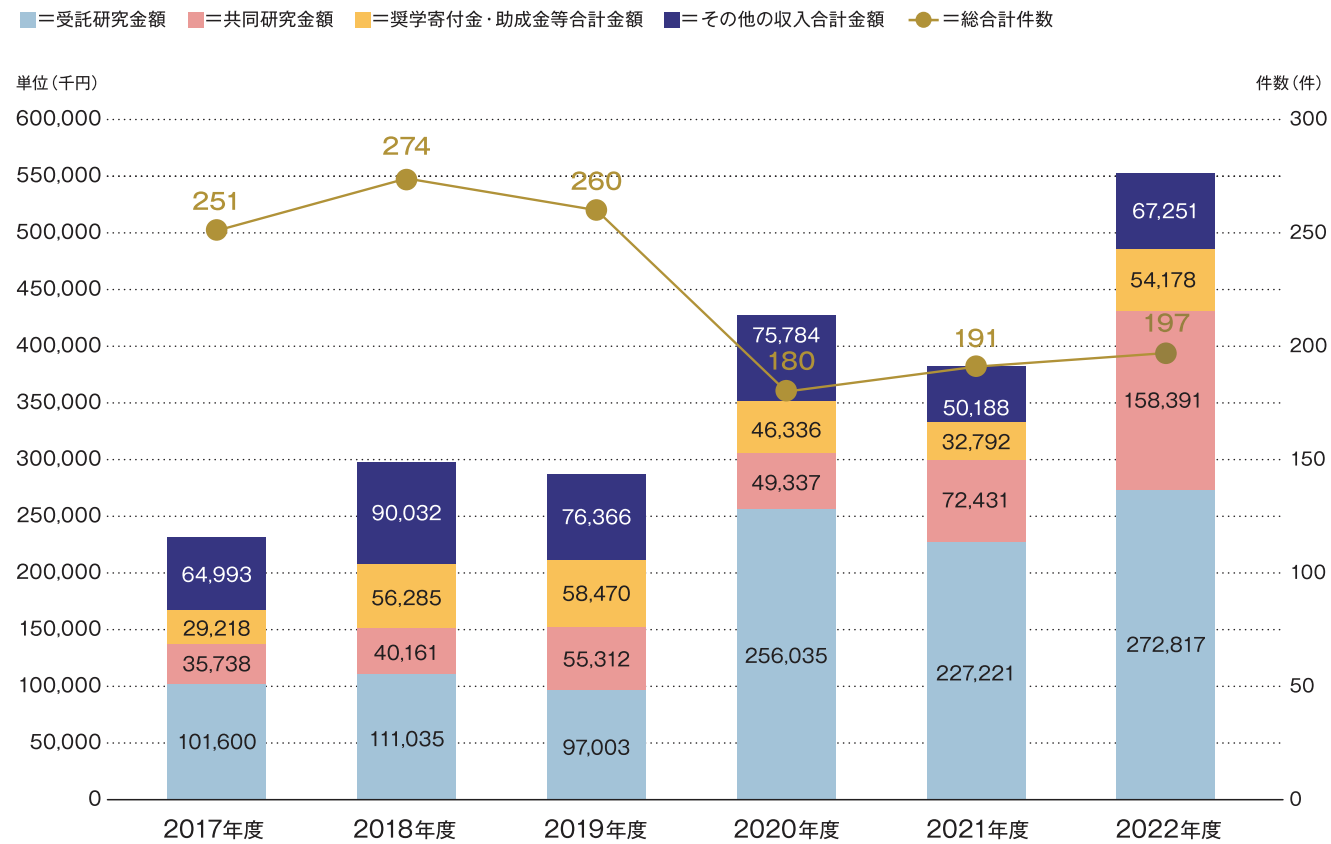
教育職員免許状
申請者数 合計

408名

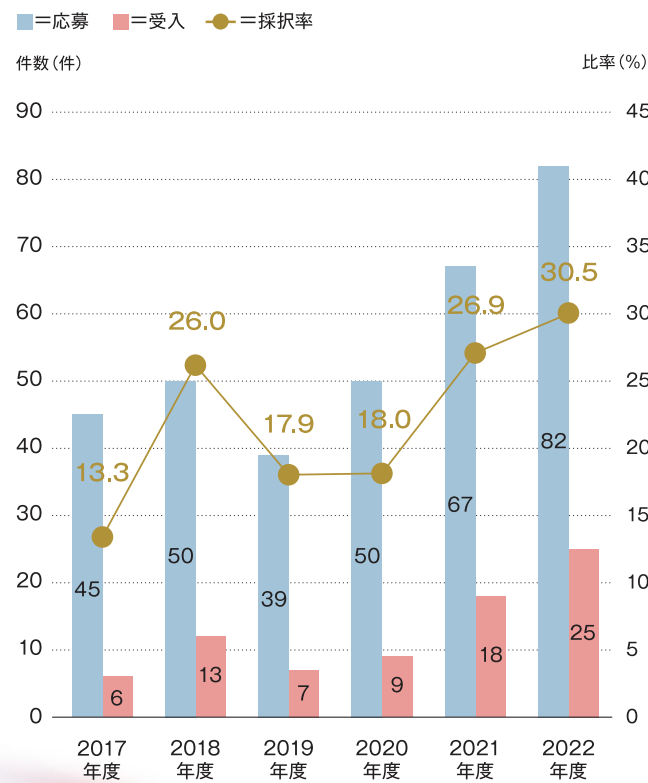


研究データ Research Data

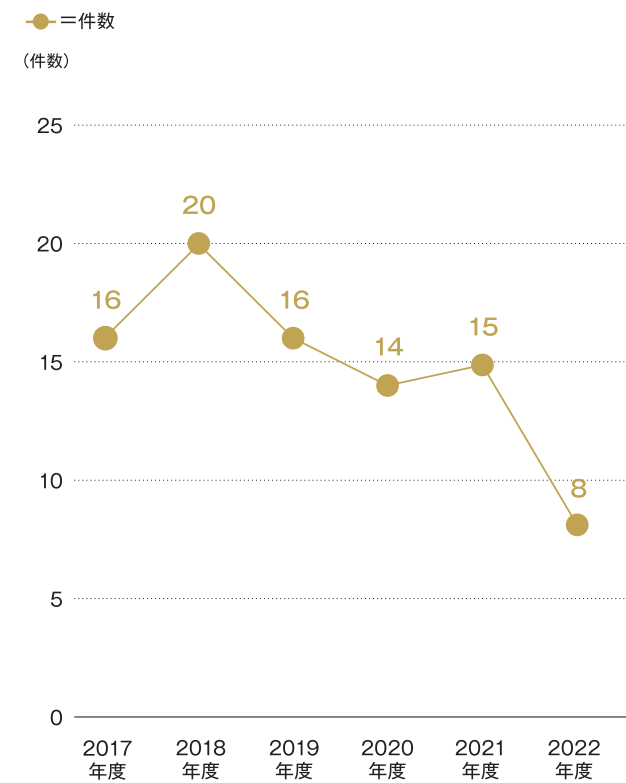
受託研究・共同研究・奨学寄付金・助成金その他の収入総合計



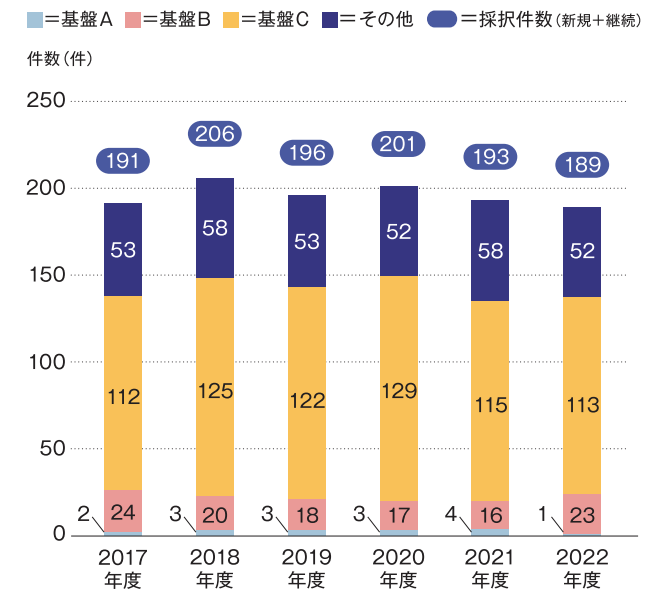
学外研究助成応募・受入数の推移



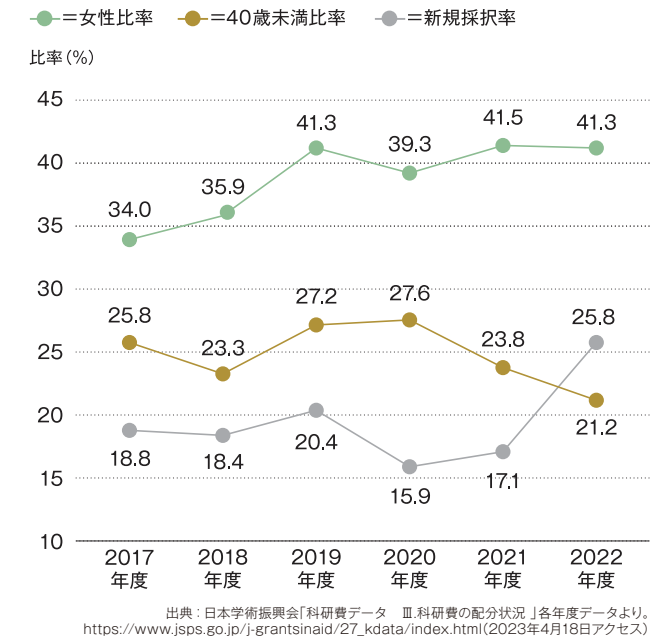
特許出願件数



科研費採択状況(新規+継続)



科研費採択状況(新規+継続)

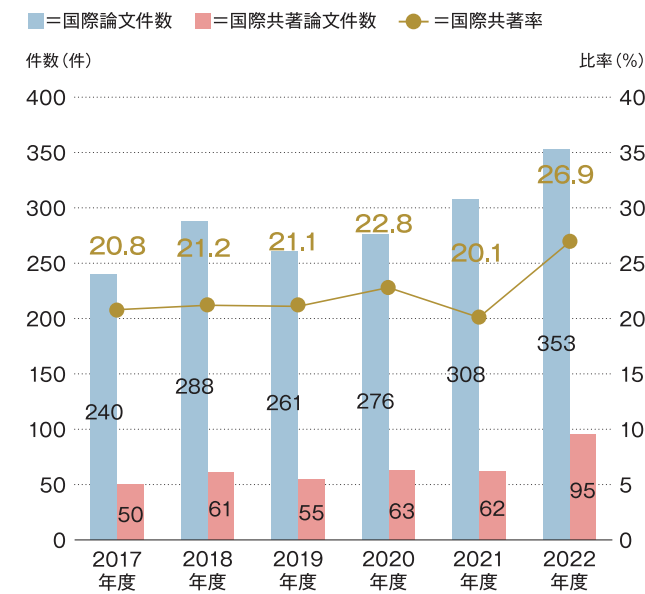


科研費採択状況(2018年度~2022年度の累計採択件数)

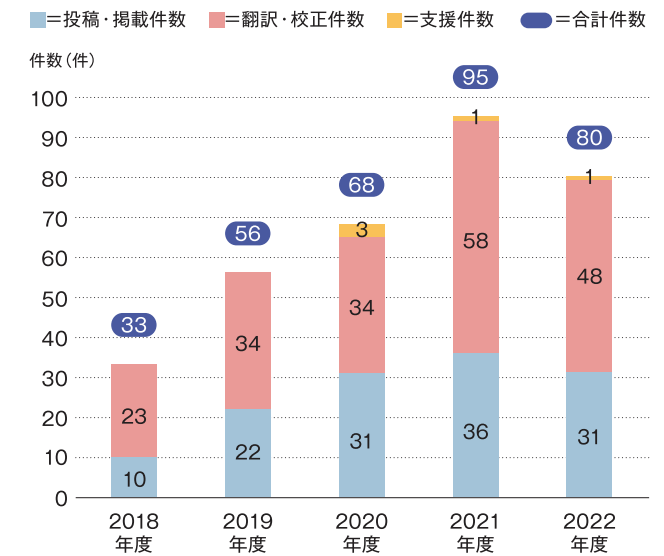
学術変革領域研究(A)	1	国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B))	2
学術変革領域研究(B)	1	若手研究	97
基盤研究(A)	4	新学術領域研究(研究領域提案型)	4
基盤研究(B)	33	挑戦的研究(開拓)	1
基盤研究(C)	234	挑戦的研究(萌芽)	4
研究活動スタート支援	21	特別研究員奨励費	9
国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(A))	3		

出典：国立情報学研究所「KAKEN - 研究課題をさがす」[科学研究費助成事業データベース]より、2018年度から2022年度採択までで検索。
https://kaken.nii.ac.jp/ja/ (2023年5月18日アクセス)

国際論文・国際共著論文数の推移



国際学術誌への学術論文投稿助成制度件数の推移



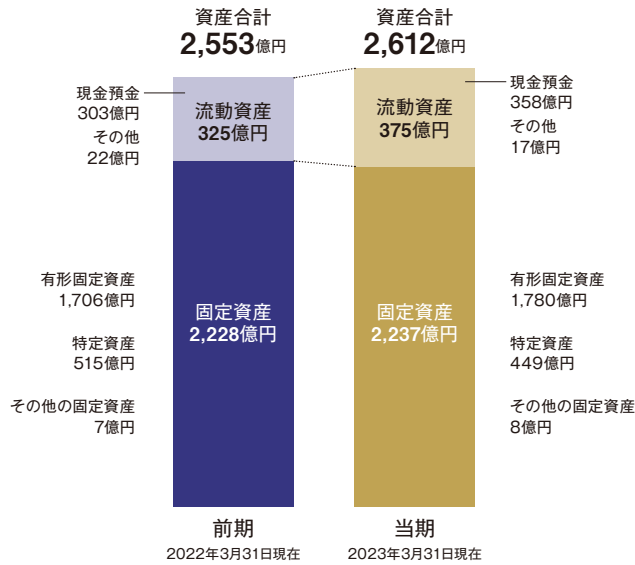


経済・財政 Economy & Finance

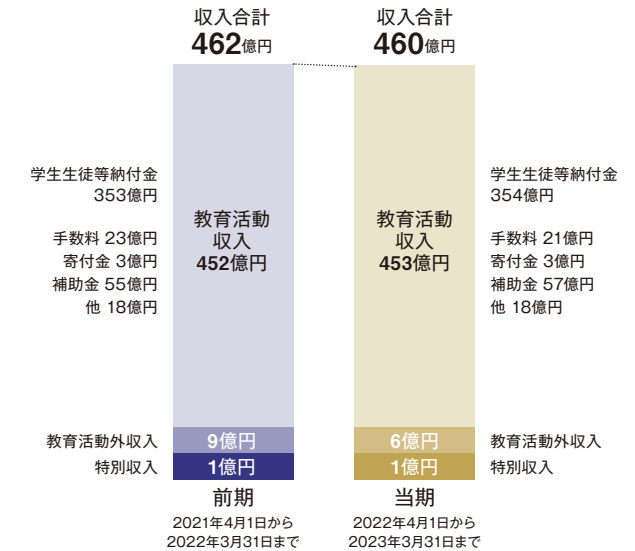
2022年度 決算

貸借対照表および事業活動収支計算書のレビューをWebでご覧いただけます。
<https://www.toyo.ac.jp/toyo2023/economy/>

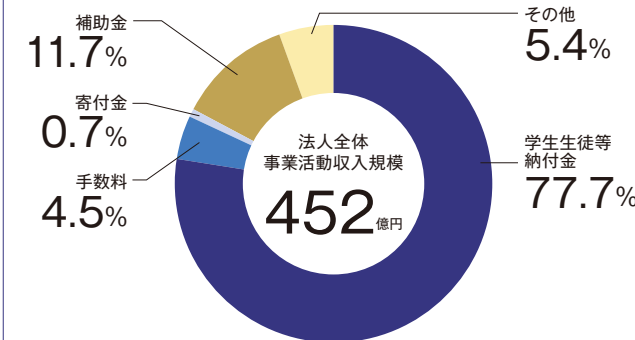
資産の状況



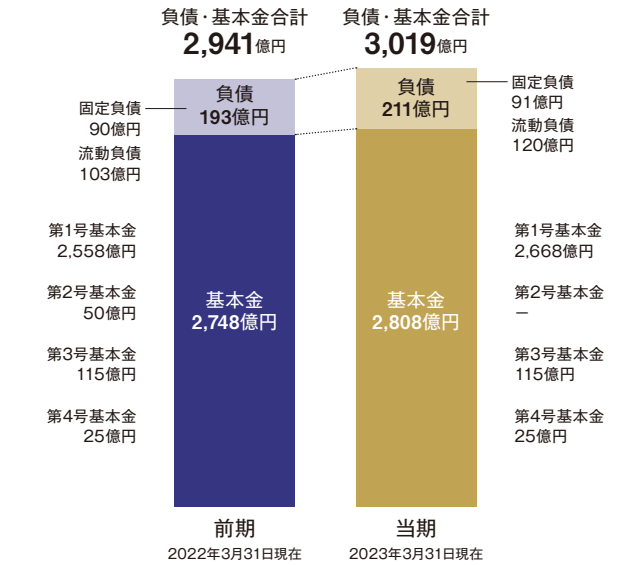
事業活動収入の状況



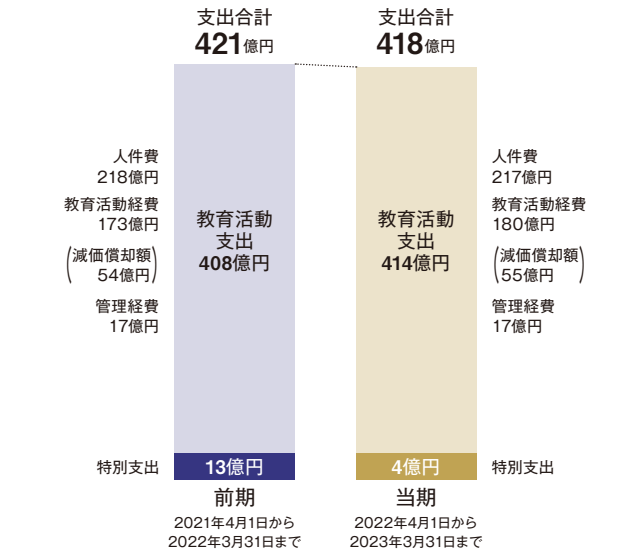
2023年度 予算規模



負債・基本金の状況



事業活動支出の状況



資金収支計算書

一事業年度における現金預金の収入および支出の一覧です。

□収入の部

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
学生生徒等納付金収入	35,173	35,168	35,719	35,278	35,355
手数料収入	2,920	2,596	2,257	2,300	2,134
寄付金収入	187	224	366	282	317
補助金収入	4,198	4,238	5,277	5,538	5,763
資産売却収入	32,649	0	322	50	0
付随事業・収益事業収入	787	831	568	723	1,234
受取利息・配当金収入	308	166	336	724	436
雑収入	966	792	901	1,244	759
借入金等収入	0	0	0	0	0
前受金収入	8,170	8,161	7,894	8,130	8,561
その他の収入	11,324	6,532	7,791	8,020	10,664
資金収入調整勘定	△ 10,399	△ 9,761	△ 9,835	△ 9,171	△ 9,025
前年度繰越支払資金	25,381	29,675	32,006	32,093	30,300
収入の部合計	111,664	78,623	83,603	85,212	86,497

□支出の部

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
人件費支出	21,554	21,475	21,502	21,797	21,597
教育研究経費支出	9,868	10,885	12,164	11,884	12,557
管理経費支出	1,528	1,809	1,483	1,650	1,684
借入金等利息支出	0	0	0	0	0
借入金等返済支出	0	0	0	0	0
施設関係支出	9,553	7,284	10,650	11,949	10,060
設備関係支出	1,152	1,525	1,894	1,354	3,285
資産運用支出	37,366	2,422	3,587	4,646	1,755
その他の支出	2,850	2,651	2,400	3,144	2,580
資金支出調整勘定	△ 1,882	△ 1,435	△ 2,170	△ 1,512	△ 2,797
翌年度繰越支払資金	29,675	32,006	32,093	30,300	35,775
支出の部合計	111,664	78,623	83,603	85,212	86,497

活動区分資金収支計算書

活動区分ごとの現金預金の収支の明細です。

科目	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
教育活動による資金収支					
教育活動資金収入計	44,087	43,784	44,874	45,158	45,292
教育活動資金支出計	32,930	34,014	35,148	35,331	35,825
差引	11,157	9,770	9,726	9,827	9,467
調整勘定等	△ 1,578	215	△ 150	189	1,071
教育活動資金収支差額	9,579	9,985	9,576	10,016	10,538
施設整備等活動による資金収支					
施設整備等活動資金収入計	9,443	3,585	5,273	5,095	8,081
施設整備等活動資金支出計	21,805	10,859	15,684	17,443	14,385
差引	△ 12,362	△ 7,274	△ 10,412	△ 12,348	△ 6,304
調整勘定等	△ 239	△ 415	564	△ 214	974
施設整備等活動資金収支差額	△ 12,601	△ 7,689	△ 9,847	△ 12,562	△ 5,331
小計(教育活動資金収支差額＋施設整備等活動資金収支差額)	△ 3,022	2,296	△ 271	△ 2,546	5,208
その他の活動による資金収支					
その他の活動資金収入計	34,333	1,287	1,787	2,243	2,012
その他の活動資金支出計	27,023	1,321	1,455	1,497	1,739
差引	7,310	△ 33	332	746	273
調整勘定等	6	69	26	7	△ 5
その他の活動資金収支差額	7,316	36	358	753	268
支払資金の増減額(小計＋その他の活動資金収支差額)	4,294	2,331	87	△ 1,793	5,476
前年度繰越支払資金	25,381	29,675	32,006	32,093	30,300
翌年度繰越支払資金	29,675	32,006	32,093	30,300	35,775

事業活動収支計算書

経営状況や財政状態を正しく理解でき、「教育の持続性」に対する判断に役立ちます。

科目	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
教育活動収支					
事業活動収入の部					
学生生徒等納付金	35,173	35,168	35,719	35,278	35,355
手数料	2,920	2,596	2,257	2,300	2,134
寄付金	196	231	388	289	329
経常費等補助金	4,152	4,182	5,138	5,505	5,688
付随事業収入	787	831	568	723	1,234
資産売却差額	0	0	0	0	0
雑収入	876	803	836	1,086	570
教育活動収入計	44,104	43,810	44,906	45,182	45,311
事業活動支出の部					
人件費	21,539	21,560	21,599	21,847	21,726
教育研究経費	14,689	15,359	16,662	17,258	18,049
管理経費	1,563	1,702	1,529	1,695	1,711
徴収不能額等	0	0	0	0	0
教育活動支出計	37,791	38,621	39,789	40,800	41,487
教育活動収支差額	6,313	5,189	5,118	4,382	3,824
教育活動外収支					
事業活動収入の部					
受取利息・配当金	308	166	336	724	436
その他の教育活動外収入	90	0	56	160	182
教育活動外収入計	397	166	392	884	618
事業活動支出の部					
借入金等利息	0	0	0	0	0
その他の教育活動外支出	16	90	0	0	13
教育活動外支出計	16	90	0	0	13
教育活動外収支差額	381	76	392	884	605
経常収支差額	6,694	5,265	5,509	5,266	4,429
特別収支					
事業活動収入の部					
資産売却差額	2,270	0	4	29	0
その他の特別収入	90	106	213	111	147
特別収入計	2,360	106	217	140	147
事業活動支出の部					
資産処分差額	595	205	205	1,263	356
その他の特別支出	9	69	0	0	3
特別支出計	604	274	205	1,263	359
特別収支差額	1,756	△ 168	12	△ 1,123	△ 213
基本金組入前当年度収支差額	8,450	5,097	5,521	4,143	4,217
基本金組入額合計	△ 11,468	△ 7,740	△ 1,275	△ 7,334	△ 5,987
当年度収支差額	△ 3,018	△ 2,644	4,246	△ 3,191	△ 1,770
前年度繰越収支差額	△ 34,266	△ 37,284	△ 39,928	△ 35,682	△ 38,873
基本金取崩額	0	0	0	0	0
翌年度繰越収支差額	△ 37,284	△ 39,928	△ 35,682	△ 38,873	△ 40,643
(参考)					
事業活動収入計	46,861	44,083	45,515	46,206	46,075
事業活動支出計	38,410	38,986	39,994	42,063	41,858



経済・財政 Economy & Finance

貸借対照表

「学校法人の体力(財務状況・安全性)」を把握することができます。

(単位: 百万円)

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
固定資産	208,037	210,768	216,818	222,766	223,747
流動資産	32,620	34,628	34,649	32,477	37,495
資産の部合計	240,657	245,396	251,467	255,243	261,242
固定負債	8,762	8,842	8,938	8,984	9,095
流動負債	10,759	10,322	10,777	10,363	12,033
負債の部合計	19,522	19,164	19,715	19,347	21,129
基本金	258,419	266,160	267,435	274,769	280,756
繰越収支差額	△ 37,284	△ 39,928	△ 35,682	△ 38,873	△ 40,643
純資産の部合計	221,135	226,232	231,753	235,896	240,113
負債および純資産の部合計	240,657	245,396	251,467	255,243	261,242

財務指標

経営成績や財政状態を数値化することで、学校法人としての「安全性」や「成長性」を読み取ることができます。

主な財務比率比較

(単位: %)

比率名	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	全国平均 (医療系法人を除く)
事業活動収支差額比率〔基本金組入前当年度収支差額／事業活動収入〕	18.0	11.6	12.1	9.0	9.2	6.4
学生生徒等納付金比率〔学生生徒等納付金／経常収入〕	79.0	80.0	78.9	76.6	77.0	73.6
寄付金比率〔寄付金／事業活動収入〕	0.5	0.6	1.0	0.8	0.9	2.2
補助金比率〔補助金／事業活動収入〕	9.0	9.6	11.6	12.0	12.5	14.3
人件費比率〔人件費／経常収入〕	48.4	49.0	47.7	47.4	47.3	51.3
教育研究経費比率〔教育研究経費／経常収入〕	33.0	34.9	36.8	37.5	39.3	34.3
管理経費比率〔管理経費／経常収入〕	3.5	3.9	3.4	3.7	3.7	8.3
借入金等利息比率〔借入金等利息／経常収入〕	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1
基本金組入率〔基本金組入額／事業活動収入〕	24.5	17.6	△ 2.8	△ 15.9	△ 13.0	10.1
減価償却額比率〔減価償却額／経常支出〕	12.8	11.6	11.3	13.2	13.3	11.8
人件費依存率〔人件費／学生生徒等納付金〕	61.2	61.3	60.5	61.9	61.5	69.7
基本金組入後収支比率〔事業活動支出／事業活動収入－基本金組入額〕	108.5	107.3	90.4	108.2	104.4	104.1
経常収支差額比率〔経常収支差額／経常収入〕	15.0	12.0	12.2	11.4	9.6	5.9
教育活動収支差額比率〔教育活動収支差額／教育活動収入計〕	14.3	11.8	11.4	9.7	8.4	4.2

※「経常収入」＝教育活動収入計＋教育活動外収入計

寄付金状況

寄付金の種類	2022年度	
	金額	件数
特別寄附金	298,253 千円	3,457 件
奨学寄付金	28,243 千円	20 件
教育・研究協力資金	247,506 千円	3,307 件
教育・研究協力資金(施設)	5,737 千円	67 件
その他の特別寄付金	16,767 千円	63 件
古本募金	160 千円	50 件
リユース募金	61 千円	6 件
その他	16,546 千円	7 件
一般寄付金	18,600 千円	2 件
現物寄付金	77,875 千円	488 件
合計	394,728 千円	3,947 件

補助金状況

(単位: 千円)

補助金の種類	2022年度 補助金額
国庫からの補助金	4,236,608
私立大学等経常費補助金	2,841,084
一般補助	2,623,168
特別補助	217,916
成長力強化に貢献する質の高い教育	770
社会人の組織的な受入れ	3,600
大学等の国際交流の基盤整備	59,432
大学院等の機能の高度化	104,114
私立大学等改革総合支援事業	50,000
私立学校施設整備費補助金・私立大学等研究設備整備費等補助金	72,452
国際化拠点整備事業費補助金(スーパーグローバル大学創成支援)	69,797
スーパーグローバル大学創成支援事業	52,544
大学の世界展開力強化事業	17,253
大学等における修学の支援に関する法律による授業料等減免費交付金	1,250,166
その他の補助金	3,109
地方公共団体等からの補助金	1,526,155
私立学校経常費補助金	1,394,277
授業料軽減補助金・入学金軽減補助金	75,392
その他の補助金	56,486
合計	5,762,763



キャンパス・施設／附属学校等 Campus Facilities etc.

キャンパス・施設

白山キャンパス Hakusan Campus



文学部／経済学部／経営学部／法学部／社会学部／国際学部／国際観光学部／
文学研究科／社会学研究科／法学研究科／経営学研究科／経済学研究科／
国際学研究科／国際観光学研究科

〒112-8606 東京都文京区白山5-28-20 TEL. 03-3945-7224
5-28-20 Hakusan, Bunkyo-ku, Tokyo

川越キャンパス Kawagoe Campus



理工学部／総合情報学部／
理工学研究科／総合情報学研究科

〒350-8585 埼玉県川越市鯉井2100 TEL. 049-239-1300
2100 Kujirai, Kawagoe-shi, Saitama

朝霞キャンパス Asaka Campus

※朝霞キャンパスは2024年4月より使用予定です

〒351-8510 埼玉県朝霞市岡48-1
48-1 Oka, Asaka-shi, Saitama

大手町サテライト Otemachi Satellite

経済学研究科(公民連携専攻)

〒100-0004 東京都千代田区大手町2-2-1 新大手町ビル1F TEL. 03-3231-1021
1F New Otemachi Building, 2-2-1 Otemachi, Chiyoda-ku, Tokyo

附属学校等

東洋大学附属 姫路中学校・高等学校

Toyo University Himeji Junior and
Senior High School

〒671-2201 兵庫県姫路市書写1699
TEL. 079-266-2626
1699 Shosha, Himeji-shi, Hyogo

東洋大学附属 牛久中学校・高等学校

Toyo University Ushiku Junior and
Senior High School

〒300-1211 茨城県牛久市柏田町1360-2
TEL. 029-872-0350
1360-2 Kashiwadacho, Ushiku-shi, Ibaraki

東洋大学 京北中学高等学校

Toyo University Keihoku Junior and
Senior High School

〒112-8607 東京都文京区白山2-36-5
TEL. 03-3816-6211
2-36-5 Hakusan, Bunkyo-ku, Tokyo

京北幼稚園

Keihoku Kindergarten

〒113-0021 東京都文京区本駒込2-13-5
TEL. 03-3941-7090
2-13-5 Honkomagome, Bunkyo-ku, Tokyo

赤羽台キャンパス Akabanedai Campus



情報連携学部／福祉社会デザイン学部／健康スポーツ科学部／
情報連携学研究科／社会福祉学研究科／ライフデザイン学研究科／
健康スポーツ科学研究科

〒115-8650 東京都北区赤羽台1-7-11 TEL. 03-5924-2100
1-7-11 Akabanedai, Kita-ku, Tokyo

板倉キャンパス Itakura Campus※



生命科学部／食環境科学部／
生命科学研究科／食環境科学研究科

〒374-0193 群馬県邑楽郡板倉町泉野1-1-1 TEL. 0276-82-9111
1-1-1 Izumino, Itakura-machi, Oira-gun, Gunma

※2024年4月に、朝霞キャンパス(埼玉県朝霞市)に移転します。

総合スポーツセンター General Sports Center

〒174-0053 東京都板橋区清水町92-1 TEL. 03-6454-3340
92-1 Shimizu-cho, Itabashi-ku, Tokyo